

横浜市磯子区生活支援センター 平成27年度事業報告書

当生活支援センターは、平成18年11月に開所し、10年目を迎えました。25年度から「指定特定相談支援事業所」として新たに開始したサービス利用計画案の作成等の「計画相談支援」業務に積極的に取り組みました。地域の精神保健福祉の更なる充実を図るため、地域関係機関との連携について模索し、区内の精神障害者を対象とした事業所の連絡会を立ち上げるための検討会を複数回開催しました。

【施設の方針】

磯子区生活支援センターは、日常生活の支援を通し、一人ひとりが「あんしん」や「つながり」を実感できるような地域づくりを目指します。

【平成27年度の重点事業】

上記の方針に基づき、次の3点に重きを置き、事業を実施しました。

1 「基本相談支援」の充実

(1) 来館している当事者に対して

スタッフの側から積極的に声を掛け、来館時やプログラム時の様子から生活上の変化について注意を払います。継続的な支援が必要な方については、「個別支援計画」を作成し、支援方針を共有します。

(2) 来館が困難な当事者に対して

来館が困難な当事者に対しては、これまでも訪問支援を行ってきましたが、更に多くの方との「つながり」が実現するよう積極的に訪問支援を進めます。また、定期的に訪問を行う方については、「個別支援計画」を作成し、支援方針を共有します。

SOSの発信が苦手な当事者もいるため、来館が遠のいた方については、当生活支援センターの側から積極的に連絡を取り、必要な支援を行います。

2 「計画相談支援」の充実

自立支援法内のサービスを利用する当事者の希望に応じ、「サービス利用計画」を作成し、その後も一定期間ごとにモニタリングを行います。

3 うつ病に関する事業の継続

依然として、うつ病に関する相談が多く寄せられていることから、引き続き、うつ病に関する事業を開催します。

(1) うつ病「家族交流会」

うつ病を抱える当事者のご家族が「自分の気持ちを語れる場」「思いを共有できる場」「情報交換ができる場」として毎月、開催します。

【事業の実施状況】

利用者登録状況

(平成28年3月末現在)

登録者数	1,029人
男女別内訳	男性 607人 女性 422人
居住区	磯子区 424人・金沢区 167人・南区 101人・港南区 89人 中区 54人・その他市内 158人・市外 36人
年代別	29歳以下 55人・30歳代 195人・40歳代 362人 50歳代 244人・60歳以上 173人
平均年齢	男性 47.8歳 女性 47.2歳 全体 47.6歳

1 相談支援

住みなれた地域で日々安心して自分らしい生活が送れるよう、当事者をはじめ、ご家族、関係機関スタッフ等の相談に随時応じました。特に継続した支援が必要なケースについては、「個別支援計画」を作成し、支援方針を共有しました。また、必要に応じて、区福祉保健センターや医療機関等の関係機関との連携を図り対応しました。

(1) 電話相談

受付時間 9時から21時まで (平成28年3月末現在)

電話相談	6,230件	(1日平均 17.6件)
------	--------	--------------

(2) 面接相談

受付時間 9時から21時まで (平成28年3月末現在)

面接相談	2,265件	
・面接室相談	821件	(1日平均 2.3件)
・生活場面相談	1,444件	(1日平均 4.1件)

(3) 訪問・同行

引き続き、来館が困難な利用者には自宅を訪問したり、受診同行が必要な利用者に対して、医療機関に同行する等、必要に応じて訪問・同行支援を行いました。

(平成28年3月末現在)

訪問・同行	172件	(1ヶ月平均 14.3件)
-------	------	---------------

(4) 嘱託医相談

精神科 月3回

内科 月1回

(平成28年3月末現在)

実施回数	48回
相談者数	17人 (男性8人・女性5人・家族等4人)

2 場の提供

当事者に「過ごす場」を提供するとともに「各種のプログラム」や「サークル活動の場」を提供しました。いずれも活動を通じて、「何かに取り組むことの楽しさ」や「利用者同士の交流の場」を提供することを主目的としました。

(1) 過ごす場の提供

開館時間 9時から21時まで (平成28年3月末現在)

居場所提供(来館者)	8,408人	(1日平均 23.8人)
------------	--------	--------------

(2) 各種プログラムおよびサークル活動

参加者一人ひとりが、他者との「つながり」を感じられるように展開しました。

また、利用者の希望に応じ随時、新たな活動も展開しました。

(平成28年3月末現在)

プログラム・サークル名	目的・内容	回数	参加人数
統合失調症の「当事者学習会」	統合失調症を抱える当事者の学習の場や交流の場	4	18
統合失調症当事者学習会「医師への質問会」	当事者学習会参加者が精神科医に質問をし病気の理解を深める	1	4
書道教室	書を通じて、何かに取り組むことの楽しさを味わう	10	50
当事者企画	当事者がプログラムの企画、運営をする	3	70
カフェ	飲み物を飲みながら参加者同士の会話を楽しむ場	32	212
就労者の会	就労中の当事者の交流の場・支え合いの場	3	15
昼食会	参加者で調理をしたり、皆で食事を摂る楽しみを味わう	4	46
利用者ミーティング	センターや日々の生活に関する意見交換・情報交換の場	6	31
かたつむりの会	当事者運営のサークル活動	2	3
運営報告会	利用者に対し、施設の運営状況を報告する場	2	14
I.S.O.T.T	地域関係機関の連携、当事者や職員のリハビリを目的とした場	10	383
季節行事・地域行事	花見等を開催し、季節感を味わう。また、夏祭り等地域の行事に参加し、市域との交流を図る。	8	38
強化プログラム	カフェスペシャル、散歩等新たなプログラムを実施。	28	191

(3) 当事者活動

ピア活動に関して、より一層、職員の理解を深めるため、勉強会への参加や他施設見学等を行いました。

利用者に「ピア活動を紹介する」と共に利用者の主体性を尊重した「ピア活動の実践」に取り組みました。

特に自主活動を開催しているグループについては、継続、発展できるよう必要な支援を行いました。

(平成28年3月末現在)

かたつむりの会	隔週金曜日	夜間開催	2回開催	3人参加
ピアミーティング			5回開催	24人参加

3 各種サービスの提供

利用者が生き生きと地域生活を送ることができるように、各種のサービスを提供しました。

(1) 夕食サービス

1回 400円程度

申込受付 前日から当日の15時まで

(「月間注文表」であらかじめ注文することも可能です)

(平成28年3月末現在)

夕食サービス利用者	3,365人	(1日平均 9.5人)
-----------	--------	-------------

(2) 入浴サービス

1回 100円

(平成28年3月末現在)

入浴サービス利用者	866人	(1日平均 2.4人)
-----------	------	-------------

(3) ランドリーサービス (洗濯機と乾燥機の利用)

1回 100円 (両方の使用で100円)

(平成28年3月末現在)

ランドリー利用サービス利用者	210人	(1日平均 0.6人)
----------------	------	-------------

(4) インターネット・印刷サービス

10分10円 ・ 1枚10円

(平成28年3月末現在)

インターネットサービス利用者	326人	(1日平均 0.9人)
----------------	------	-------------

4 家族支援

当センターでは、ご家族と同居している利用者が多く、ご家族からの相談も多く寄せられるため、通年でご家族に対する支援を行いました。

(平成 28 年 3 月末現在)

事業名	目的・内容	回数	参加人数
統合失調症の「家族教室」	統合失調症の当事者を家族に持つ方の学びの場・交流の場（家族会、支援センターの共催）	3	64
うつ病の「家族交流会」	うつ病の当事者を家族に持つ方の語りの場・交流の場	6	17

※また、なぎさ会（家族会）の例会や総会に職員が参加し、ご家族のご意見をお伺いすると共に情報交換を行いました。

5 広報・啓発活動

地域の方々に精神障害に関する理解を広めるとともに、当センターの機能や事業内容を周知し、利用促進を図りました。

(1) 地域ケアプラザ等との連携

区内の地域ケアプラザ等において講演会等を行い、「精神障害に関する理解」を広めるとともに生活支援センターの機能の周知を図りました。

(平成 28 年 3 月末現在)

施設名	開催日	講座テーマ	参加人数
新杉田CP	5月14日	精神障害について	31
根岸CP	6月30日	精神障害について	25
磯子CP	7月15日	精神障害について (うつを中心に)	22
上笹下CP	9月26日	精神障害について	28
上笹下CP	11月9日	〃	24
滝頭CP	11月12日	心の健康講座 (統合失調症について)	20
合 計			150

※屏風ヶ浦地域ケアプラザとは、毎月1回連絡会議を開催、ケース検討などを行いました。その他地域ケア会議に参加、具体的な事例についての検討を行いました。

(2) 「9周年記念イベント」

屏風ヶ浦地域ケアプラザと共催の記念イベントを行い、「精神障害に関する理解」を広めるとともに生活支援センターの機能の周知を図りました。

11月1日(日) 10時~15時 約400人来館 (屏風ヶ浦地域ケアプラザ文化祭と同日開催)

(3) 「生活支援センターだより」

「生活支援センターだより」を毎月発行し、市内の関係機関（医療機関・作業所・グループホームなど）に配布しました。また、ホームページ上でも閲覧できるようにしました。

毎月 発行

(4) 機関紙「うえるかむ」

機関紙を年一回発行し、地区センターや地域ケアプラザなど、区内の施設に設置しました。また、町内会のご協力を得て区内全域の班回覧を実施、「精神障害に関する理解」を広めると共に「生活支援センターの機能の周知」を図りました。

H28年1月 磯子区内全自治会町内会に班回覧を実施

6 地域移行・地域定着支援事業

精神科病院に入院している方に対して、入院が長期化しないように病院を訪問し、退院に向けた支援を行いました。また、退院後も安心して地域での生活を送ることができ、再び入院することがないように保健・医療・福祉が連携して必要な福祉サービスが受けられるよう支援をしました。

(平成28年3月末現在)

支援対象者	6名 (支援中4名・支援終了1名・支援中止1名)
支援件数	272件(電話、面接、訪問、同行等)
啓発活動	日野病院院内プログラム職員参加(4回) 延参加人数38名 日野病院入院者、職員対象社会資源説明 37名参加

※支援対象者はいずれも横浜市退院サポート事業の利用

7 計画相談支援事業

障害者総合支援法上の福祉サービスの利用を希望している方に対し、サービス等利用計画を作成し、一定期間ごとにサービス利用に対するモニタリングを実施しました。

(平成28年3月末現在)

支援対象者	72名 (契約者44名・契約前者1名・終了者27名(平成27年度終了者は9名))
支援件数	2,534件(電話、面接、訪問、同行等)

8 自立生活アシスタント事業

単身等で生活する精神障害者が安定した生活を送れるよう、訪問による生活支援や家族・近隣・職場等との連絡調整を的確に行いました。また、地域生活を支えるために、地域の資源やサービスの実施機関等と連携して支援体制を作りました。

(平成28年3月末現在)

支援対象者	18名 (新規登録者9名、終了者6名) ※26年度新規登録者11名
支援件数	1,631件(電話等、面接、訪問、CC)

9 地域連携・交流の推進

当事者が地域でより暮らしやすい社会にするため、日常的に地域の関係機関・団体や住民の方などとの連携や交流を推進するとともに地域に開かれた生活支援センターづくりを進めました。

(1) 運営連絡会の開催

生活支援センターの運営について種々ご意見をいただき、生活支援センターの運営に反映させて行く場として、運営連絡会を年2回開催しました。

5月29日・11月24日 開催

(2) 関係機関との連携

関係機関との連絡会議に参加し、地域課題の把握や情報の共有化を図りました。また、地域課題の中から、引き続き検討や連携が必要な事項に関しては、新規に検討会、連絡会の立ち上げを行いました。

- 精神障害者支援の連携に関する検討会
- 地域ケアプラザとの連絡会や地域ケア会議への参加
- 区自立支援協議会
- 区内施設の運営委員会(シャロームの家、第2シャロームの家、工房タッチ、楳の木、いぶき、屏風ヶ浦CP)
- その他連絡会(区精神保健福祉連絡会、発達障害児者ネットワーク連絡会)など

10 事故対策・安全管理

- (1) 事故の発生を未然に防ぐため、日頃から安全管理意識を高め、事故等の緊急時には、整備している「安全管理マニュアル」に基づき、迅速かつ的確な対応を目指しました。
- (2) 屏風ヶ浦地域ケアプラザと共同で防災訓練を年2回程度、実施しました。
- (3) 横浜市との協定に基づき非常災害時の地域の避難拠点として、備蓄を整備しました。

防災訓練（屏風ヶ浦地域ケアプラザと合同）9月30日・3月11日実施

11 個人情報管理

個人情報の保護とリスクマネジメントの徹底により利用者に信頼と安心の提供を心がけました。当財団においては、「財団の保有する個人情報の保護に関する規定」を制定し、個人情報の適切な取り扱いに関し、必要な事項を定めるとともに、個人の権利・利益を保護するため、定期的に職員研修を行いました。

なお、登録者台帳等、個人情報があるパソコン、メモリースティック、書類等は、業務終了時に書庫内に収納し、施錠しています。

12 人材育成・資質向上

生活支援センター職員は、常に精神等に障害のある人たちが置かれている現状に問題意識を持ち、研修にも積極的に参加し、資質の向上に努めました。

また、日々の職員会議や月1回の職員全体会議において、利用者の状況を常に把握し、必要に応じ、ケースカンファレンスの開催や個別支援計画の作成を行いました。

13 苦情の解決

生活支援センターは、その提供したサービスに関するご利用者又はご家族等からの苦情については苦情受付の窓口を設置し、迅速で適切な解決を図りました。

また、利用者ミーティングの開催やフリースペースに設置している意見箱等を通じて、利用者からの意見に耳を傾けて、センターの運営に反映させました。

横浜市磯子区精神障害者生活支援センター 平成27年度 利用状況及び支援内容

(1) 利用状況及び支援内容

ア 利用者数内訳

(人)

(日)

全体	内訳					
	本人(男性)	本人(女性)	家族	ボランティア等	電話(※)	訪問・同行
14,810	4,887	2,651	209	661	6,230	172

開所日数
354

(2) 相談支援

ア 相談支援

(人)

合計	電話(※)		面接		訪問・同行		面接(非構造)	
	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性
8,678	2,522	3,719	491	330	74	98	907	537
1日平均	17.6		2.3		0.5		4.1	

イ 嘱託医相談

(人)

嘱託医相談(精神科・内科)				
実施回数	合計	男性	女性	家族等
48回	17	8	5	4

(3) 生活支援

食事サービス			入浴サービス			洗濯サービス		
合計	男性	女性	合計	男性	女性	合計	男性	女性
3,365	2,389	976	866	391	475	210	66	144
1日平均	9.5		1日平均	2.4		1日平均	0.6	

(人)

インターネットサービス		
合計	男性	女性
326	267	59
1日平均	0.9	

(4) 利用登録内訳

ア 男女別・年齢別

(人)

(歳)

	～19	20～29	30～39	40～49	50～59	60～	合計
男性	3	30	100	212	162	100	607
女性	0	22	95	150	82	73	422
合計	3	52	195	362	244	173	1,029

最高	最低	平均
89	18	47.8
85	21	47.2
89	18	47.6

イ 区別内訳

(人)

鶴見	神奈川	西	中	南	港南	保土ヶ谷	旭	磯子	金沢
7	16	2	54	101	89	18	13	424	167
港北	緑	青葉	都筑	戸塚	栄	泉	瀬谷	その他	合計
11	8	6	7	29	19	13	9	36	1,029

(5) 自主企画事業

スタッフが企画をしているプログラム以外に利用者と一緒に作り上げていくプログラムや、利用者が中心になって企画運営を行うサークル活動等を実施しています。

	名 称	回数	参加人数
プログラム・行事・サークル	統合失調症の「当事者学習会」	4	18
	統合失調症当事者学習会「医師への質問会」	1	4
	書道教室	10	50
	当事者企画（横浜港、しながわ水族館、送別会）	3	70
	カフェ	32	212
	就労者の会	3	15
	昼食会	4	46
	利用者ミーティング	6	31
	利用者向け「運営報告会」	2	14
	ピアミーティング	5	24
	季節行事（初詣、お花見、夏祭り、年賀状づくり等）	8	38
	9周年記念「文化祭」（屏風ヶ浦地域ケアプラザと合同）	1	400
	強化プログラム（カフェスペシャル、絵手紙教室、散歩など）	28	191
	横浜ピアスタッフ協会（定例会、事務局会議など）	3	81
	シャロームの家と協働企画（イソット、水曜会など）	10	383
かたつむりの会（当事者ミーティング）	2	3	
その他	運営連絡会	2	42
	防災訓練（屏風ヶ浦地域ケアプラザと合同）	1	7
	合 計	125	1,629

(6) 地域交流

地域の関係機関、団体との連携や交流をしています。

(人)

名 称	派遣職員延数
根岸地域ケアプラザでの相談会	4
ボランティア講座（区社協との共催）	6
区内施設の運営委員会、連絡会	15
講師派遣（地区センター職員研修、ヘルパー連絡会、区内高等学校など）	2
その他、地域との交流（賀詞交換会、自治会など）	5
合 計	32

(7) 地域会議等

地域の会議に参加し、課題の把握や情報の共有を行っています。

(人)

名 称	派遣職員延数
磯子区自立支援協議会（事務局会議、検討会含む）	10
なぎさ会（家族会）	20
その他（発達障害連絡会、ボランティア会など）	4
合 計	34

(8) 家族支援及び地域支援事業

統合失調症の方のご家族、うつ状態の方の家族への支援及び地域住民への普及啓発を行っています。地域住民向けの普及啓発では、地域ケアプラザの協力を得て開催することができました。

(人)

名 称	回数	参加人数
統合失調症の「家族教室」（区役所・家族会との共催）	3	64
うつ病の「家族交流会」	6	17
ボランティア講座（区社協との共催）	3	83
地域ケアプラザとの共催講座（うつ病・統合失調症・精神障害）	6	150
合 計	18	314

(9) 普及啓発

毎月発行している「センターだより」とは別に、広報紙「うえるかむ」を区内の自治会・町内会回覧、地域ケアプラザ、地区センター等へ配布し、地域住民への普及啓発に取り組んでいます。

(10) 地域移行・地域定着支援事業（指定一般相談支援事業および横浜市退院サポート事業）

平成25年度から「指定一般相談支援事業所」の指定を受け、障害者総合支援法に基づく地域移行支援・地域定着支援（指定一般相談支援事業）を行っています。また、従来からの横浜市地域移行・地域定着支援事業（通称：横浜市退院サポート事業）を実施しています。「退院したい気持ち」を大切に、医療と福祉の連携を強化しながら、ケアマネジメントの手法に基づいた退院支援を行っています。

《個別支援》 平成 27 年度は支援対象者に延べ 315 回の支援を行いました。

○横浜市地域移行・地域定着支援事業（通称：横浜市退院サポート事業）

支援対象者数	病 名	帰 結	退院後の帰来先
6 人	・統合失調症 4 人 ・その他 2 人	・退院 3 人 ・支援継続 2 人 ・支援中止 1 人	・宿泊型自立訓練施設 1 人 ・アパート設定 1 人 ・自宅 1 人

○地域定着支援（国事業）

支援対象者数	支援終了者
1 人	0 人

※市事業と重複利用の場合は再掲

《協働活動・普及啓発》

○生活訓練係、港南区の関係機関と協働し、日野病院で当事者や職員を対象とした啓発活動を行いました。

日野病院	入院者、職員	社会資源の紹介 事業説明	日野病院、港南区、港南区・磯 子区生活支援センター、ハイツ かもめ、横浜ピアサポート協会	37 人
------	--------	-----------------	--	------

○日野病院との協働活動

日野病院との協働活動として、退院を目標とした院内プログラムに支援センター職員が参加しました。

対象者	プログラムの目的	実施回数	平均参加人数
日野病院 長期療養病棟入院者	退院の動機づけを目指す	4 回	9 人（延参加人数 38 人）

主に生活スキルの獲得を目指した内容

(1 1) 計画相談支援事業

平成 25 年度から「指定特定相談支援事業所」の指定を受け、地域で生活する当事者の自立した生活を支え、課題の解決や適切な福祉サービス利用に向けたケアマネジメントを行っています。また、障害福祉サービスを利用する際のサービス利用支援（サービス等利用計画案作成）、及び継続サービス利用支援（モニタリング）を実施しています。

○平成 25 年度からの契約者累計（人）

相談中	契約中	契約終了	合 計
1	44	27	72

○世代別・男女別（人）

	～19	20～29	30～39	40～49	50～59	60～	合計
男性	0	3	3	2	5	2	15
女性	0	7	4	5	6	7	29
合計	0	10	7	7	11	9	44

○世帯状況（人）

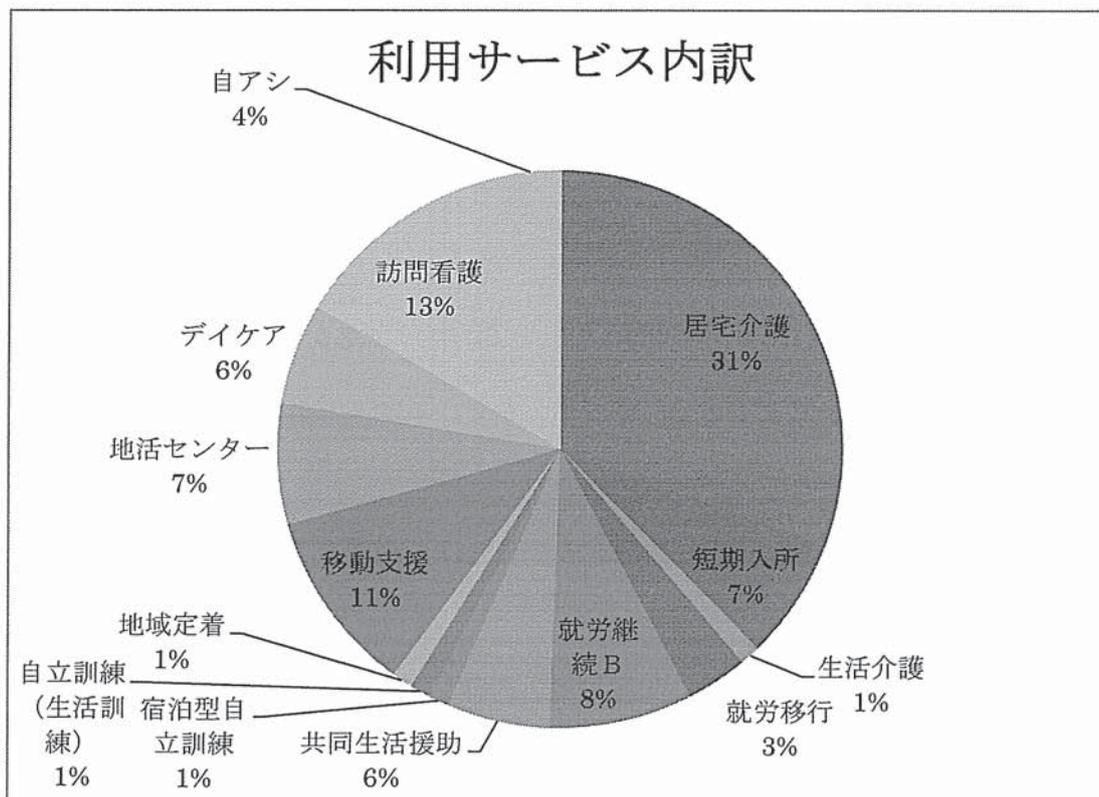
家族同居	単身	施設	入院中	合計
18	19	7	0	44

○H27年度の計画作成件数とモニタリング件数（件）

計画作成※	モニタリング
52	175

※計画作成件数は法定サービス更新時の作成も含む。

○利用サービスの内訳（契約中の44人）



○平成27年度 援助方法（件）

面接	電話等	訪問	同行	担当者会議	打合せ	その他	合計
118	1945	236	25	36	33	141	2534

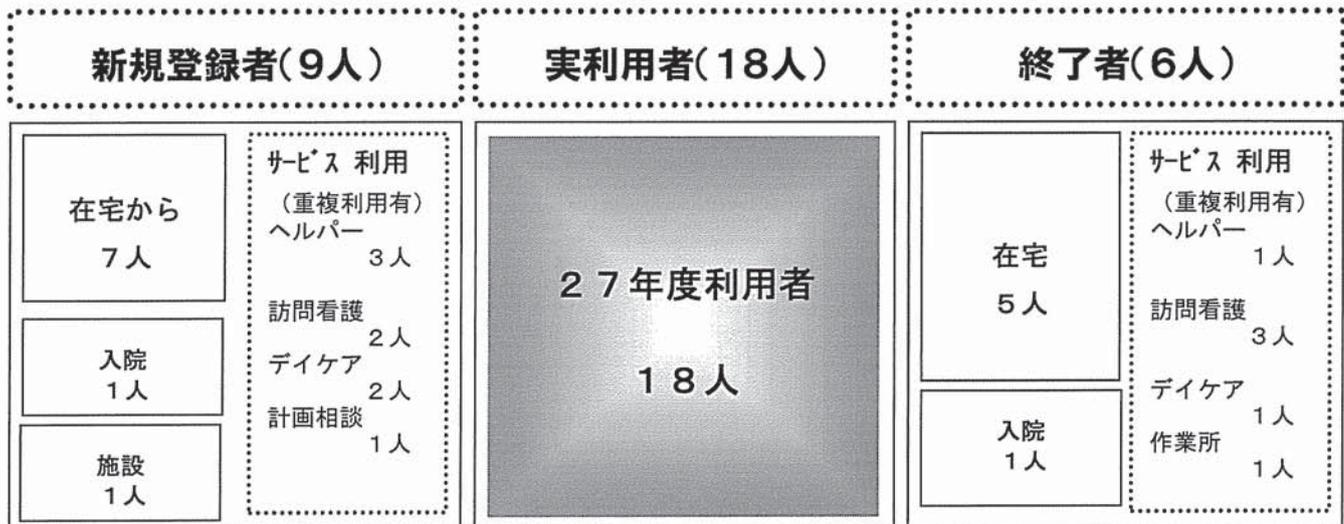
○計画相談終了の理由（H27年度終了者9人）

終了理由	人数
サービス利用の終了	6
転居	1
介護保険へ移行	1
サービス利用に至らず	1
合計	9

（12）横浜市障害者自立生活アシスタント事業

単身等で生活する方を対象に、アウトリーチ（訪問）によるマンツーマンの生活支援を展開しました。施設の専門性を活かし、利用者の障害特性を踏まえた社会適応力・生活力を高めるための支援を展開しました。「自分にあった片づけ方を知り、生活空間を居心地よくしたい」「金銭管理の仕方を工夫したい」などの個別のニーズに柔軟に対応しながら、地域のサービスへの橋渡し、支援ネットワーク作りなどを行いました。本人の強み（長所）を活かし、本人にとってより自分らしい生活を目指しています。

平成27年度 自立生活アシスタント事業 利用者の状況



本表は27年度中における登録、利用、終了の状況を示したものである。したがって利用者及び終了者は27年度中の登録者とは限らない。

27年度利用者の状況、支援方法・内容

<世代別・男女別>

	20代	30代	40代	50代	60代	合計
男性	1	2	3	3	3	12
女性	1		1	2	2	6
	2	2	4	5	5	18

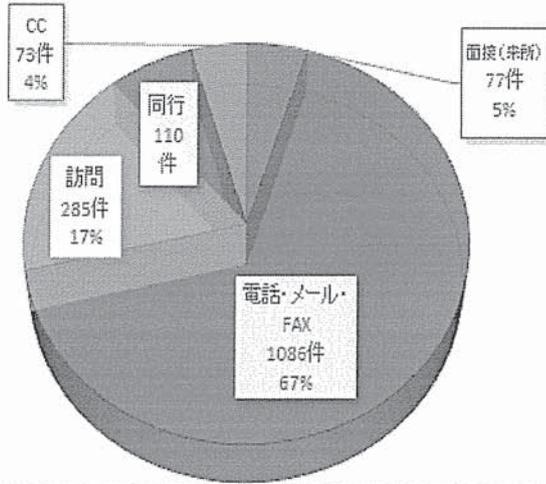
<利用目的>

①自立生活 (②以外)	②自立生活 (同居家族の 高齢化・死亡)	③退所後の 生活安定	④退院後の 生活安定	⑤その他	合計
10	1	2	5	0	18

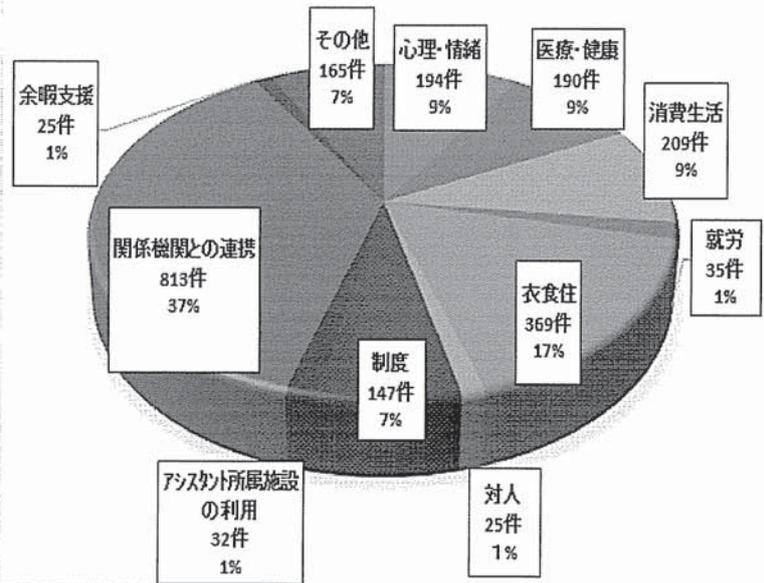
<世帯状況>

家族同居	単身	合計
1	17	18

支援方法(1,631件)



支援の内容(2,204件)



平成27年度磯子区生活支援センター指定管理料収支決算書
(全事業)

自平成 27 年 4 月 1 日 至平成 28 年 3 月 31 日

(単位 円)

科目		予算額	決算額	差 額	備 考
I 収入の部					
	1 指定管理料 収入	64,365,000	64,365,000	0	
A	2 利用料収入(給付費)		3,147,364	△ 3,147,364	
	3 地域相談支援及び計画相談支援に要した交通費収入		0	0	
収入合計		64,365,000	67,512,364	△ 3,147,364	
II 支出の部					
戻入精算 B	1 人件費	56,225,000	57,404,684	△ 1,179,684	
	所長				
	常勤職員				
	非常勤職員				
	アルバイト	2,350,000	1,334,803	1,015,197	
	調理アルバイト	2,406,000	2,322,033	83,967	
	嘱託医賃金	1,008,000	252,000	756,000	
	法定福利費	6,028,000	7,276,542	△ 1,248,542	
	退職金給与引当金	1,700,000	0	1,700,000	
	福利厚生費	54,000	64,000	△ 10,000	
	労務厚生費	138,000	160,246	△ 22,246	
2 施設管理費	4,530,000	4,447,655	82,345		
光熱水費	1,634,000	1,756,496	△ 122,496		
庁舎管理費	2,698,000	2,815,139	△ 117,139		
修繕積立金	300,000	0	300,000		
利用者負担金充当金	△ 102,000	△ 123,980	21,980		
3 運営費	3,610,000	2,714,070	895,930		
旅費	415,000	467,548	△ 52,548		
消耗品費	916,000	782,255	133,745		
印刷製本費	126,000	17,000	109,000		
修繕費	300,000	284,660	15,340		
通信運搬費	538,000	638,770	△ 100,770		
賃借料	401,000	105,066	295,934		
備品等購入費	383,000	0	383,000		
保険料	110,000	112,070	△ 2,070		
雑費	421,000	306,701	114,299		
4 本部繰入金	0	0	0		
支出合計		64,365,000	64,566,409	△ 201,409	
III 戻入精算					
A 利用料収入合計の15%				472,104	
B 人件費戻入精算分				0	
戻入合計				472,104	

横浜市磯子区生活支援センター 平成 28 年度事業報告書

磯子区生活支援センターは平成 18 年 11 月に開所以来 10 年が経過、改めて新たな 10 年に向けてスタートを切ることになりました。

開設時の基本相談支援部門、地域活動支援部門に加え、平成 23 年度に「横浜市退院サポート事業、自立生活アシスタント事業」、平成 25 年度からは「指定特定相談支援事業所」・「指定一般相談支援事業所」の指定を受け、開始した「計画相談支援事業」、「地域移行・地域定着支援事業」など業務の幅が広がってきています。生活支援センターに求められている基本相談、地域活動支援に加え、個別の相談支援機能を充実・強化し、地域の精神保健福祉の更なる充実を目指します。

【施設の方針】

磯子区生活支援センターは、日常生活の支援を通し、一人ひとりが「あんしん」や「つながり」を実感できるような地域づくりを目指します。

【平成 28 年度の重点事業】

上記の方針に基づき、次の 3 点に重きを置き、事業を実施しました。

1 「基本相談支援」の充実

(1) 来館している当事者に対して

スタッフの側から積極的に声を掛け、来館時やプログラム時の様子から生活上の変化について注意を払います。継続的な支援が必要な方については、「個別支援計画」を作成し、支援方針を共有します。

(2) 来館が困難な当事者に対して

来館が困難な当事者に対しては、これまでも訪問支援を行ってききましたが、更に多くの方との「つながり」が実現するよう積極的に訪問支援を進めます。また、定期的に訪問を行う方については、「個別支援計画」を作成し、支援方針を共有します。

SOS の発信が苦手な当事者もいるため、来館が遠のいた方については、当生活支援センターの側から積極的に連絡を取り、必要な支援を行います。

2 「計画相談支援」の充実

自立支援法内のサービスを利用する当事者の希望に応じ、「サービス利用計画」を作成し、その後も一定期間ごとにモニタリングを行います。

3 精神疾患に関する事業の継続

依然として、精神疾患に関する相談が多く寄せられていることから、引き続き、精神疾患に関する事業を開催します。

* 統合失調症の家族教室、精神疾患の家族交流会の開催

精神疾患を抱える当事者のご家族が「自分の気持ちを語れる場」「思いを共有できる場」「情報交換ができる場」として各 3 回 開催しました。

【事業の実施状況】

利用者登録状況

(平成 29 年 3 月末現在)

登録者数	786人
男女別内訳	男性 464人 女性 322人
居住区	磯子区 332人・金沢区 145人・南区 75人・港南区 62人
	中区 37人・上記以外の市内 134人・その他 1人
年代別	29歳以下 44人・30歳代 128人・40歳代 288人
	50歳代 195人・60歳以上 131人
平均年齢	男性 48.5歳 女性 47.8歳 全体 48.1歳

1 相談支援

住みなれた地域で日々安心して自分らしい生活が送れるよう、当事者をはじめ、ご家族、関係機関スタッフ等の相談に随時応じました。特に継続した支援が必要なケースについては、「個別支援計画」を作成し、支援方針を共有しました。また、必要に応じて、区福祉保健センターや医療機関等の関係機関との連携を図り対応しました。

(1) 電話相談

受付時間 10時から20時まで (平成 29 年 3 月末現在)

電話相談	5,039件	(1日平均 14.3件)
------	--------	--------------

(2) 面接相談

受付時間 9時から21時まで (平成 29 年 3 月末現在)

面接相談	1,836件	
・面接室相談	559件	(1日平均 1.6件)
・生活場面相談	1,277件	(1日平均 3.6件)

(3) 訪問・同行

引き続き、来館が困難な利用者には自宅を訪問したり、受診同行が必要な利用者に対して、医療機関に同行する等、必要に応じて訪問・同行支援を行いました。

(平成 29 年 3 月末現在)

訪問・同行	81件	(1ヶ月平均 0.2件)
-------	-----	--------------

(4) 嘱託医相談

精神科 月3回

内科 月1回

(平成 29 年 3 月末現在)

実施回数	48回	
相談者数	17人	(男性7人・女性3人・家族等7人)

2 場の提供

当事者に「過ごす場」を提供するとともに「各種のプログラム」や「サークル活動の場」を提供しました。いずれも活動を通じて、「何かに取り組むことの楽しさ」や「利用者同士の交流の場」を提供することを主目的としました。

(1) 過ごす場の提供

開館時間 9時から21時まで (平成29年3月末現在)

居場所提供(来館者) 8,283人 (1日平均 23.5人)

(2) 各種プログラムおよびサークル活動

参加者一人ひとりが、他者との「つながり」を感じられるように展開しました。

また、利用者の希望に応じ随時、新たな活動も展開しました。

(平成29年3月末現在)

プログラム・サークル名	目的・内容	回数	参加人数
統合失調症の「当事者学習会」	統合失調症を抱える当事者の学習の場や交流の場	4	31
書道教室	書を通じて、何かに取り組むことの楽しさを味わう	11	67
カフェ・スペカフェ	飲み物を飲みながら参加者同士の会話を楽しむ場	88	637
働きたい人の語り場	就労を考えている当事者の交流の場・支え合いの場	8	30
絵手紙教室	季節を感じ創作活動をする場	12	83
音楽を語る会	好きな音楽をきっかけに他者とのコミュニケーションをとる場	12	78
黙々会	同じ空間にいる事によりコミュニケーションのきっかけの場	11	66
散歩	目的地に行く達成感を感じる	11	60
昼食会	参加者で調理をして、皆で食事を摂る楽しみを味わう	4	37
利用者ミーティング	センターや日々の生活に関する意見交換・情報交換の場	2	20
自主活動	当事者運営のサークル活動(かたつむりの会・鉄道模型倶楽部)	9	28
運営報告会	利用者に対し、施設の運営状況を報告する場	1	6
I.S.O.T.T	地域関係機関の連携、当事者や職員のリハビリを目的とした場	9	320
季節行事・地域行事	花見等を開催し、季節感を味わう。また、夏祭り等地域の行事に参加し、市域との交流を図る。	13	75

(3) 当事者活動

年度当初から事務の当事者雇用に加え、通年で1名ピアスタッフとして雇用し、当該ピアスタッフを中心にプログラムの企画や運営を行いました。

横浜ピアスタッフ協会の活動や全国ピアスタッフの集いなどへの参加等を行い、ピアスタッフについての理解を深めました。また利用者と共に、ピアミーティングの開催、また当事者による自主的な活動の支援を行いました。

(平成 29 年 3 月末現在)

かたつむりの会	第三金曜日	夜間開催	8 回開催	25 人参加
鉄道模型倶楽部	第一月曜日	昼間開催	1 回開催	3 人参加

3 生活支援サービスの提供

利用者が生き生きと地域生活を送ることができるように、各種のサービスを提供しました。

(1) 夕食サービス

1 回 400 円程度

申込受付 前日から当日の 15 時まで

(平成 29 年 3 月末現在)

夕食サービス利用者	3,177 人	(1 日平均 9.0 人)
-----------	---------	---------------

(2) 入浴サービス

1 回 100 円

(平成 29 年 3 月末現在)

入浴サービス利用者	1,070 人	(1 日平均 3.0 人)
-----------	---------	---------------

(3) ランドリーサービス (洗濯機と乾燥機の利用)

1 回 100 円 (両方の使用で 100 円)

(平成 29 年 3 月末現在)

ランドリー利用サービス利用者	350 人	(1 日平均 1.0 人)
----------------	-------	---------------

(4) インターネット・印刷サービス

10 分 10 円 ・ 1 枚 10 円

(平成 29 年 3 月末現在)

インターネットサービス利用者	571 人	(1 日平均 1.6 人)
----------------	-------	---------------

4 家族支援

当センターでは、ご家族と同居している利用者が多く、ご家族からの相談も多く寄せられるため、通年でご家族に対する支援を行いました。

(平成 29 年 3 月末現在)

事業名	目的・内容	回数	参加人数
統合失調症の「家族教室」	統合失調症の当事者を家族に持つ方の学びの場・交流の場 (家族会、支援センターの共催)	3	69
精神疾患の「家族交流会」	精神疾患の当事者を家族に持つ方の語りの場・交流の場	3	20

※また、なぎさ会 (家族会) の例会や総会に職員が参加し、ご家族のご意見をお伺いすると共に情報交換を行いました。

5 広報・啓発活動

地域の方々に精神障害に関する理解を広めるとともに、当センターの機能や事業内容を周知し、利用促進を図りました。

(1) 地域ケアプラザ等との連携

区内の地域ケアプラザ等において講演会等を行い、「精神障害に関する理解」を広めるとともに生活支援センターの機能の周知を図りました。

10月に上笹下地域ケアプラザとの共同講座で横浜市総合保健医療センター西尾先生をお招きして高齢期うつ病の講演会を行い、26名参加しました。

屏風ヶ浦地域ケアプラザとは、毎月1回連絡会議を開催、ケース検討などを行いました。その他地域ケア会議に参加、具体的な事例についての検討を行いました。また、区内地域包括支援センターとの連絡会を行いました。

(2) 「10周年記念感謝祭」

屏風ヶ浦地域ケアプラザと共催の記念イベントを行い、「精神障害に関する理解」を広めるとともに生活支援センターの機能の周知を図りました。

11月6日(日) 10時～15時 約400人来館
(屏風ヶ浦地域ケアプラザ文化祭と同日開催)

(3) 「生活支援センターだより」

「生活支援センターだより」を毎月発行し、市内の関係機関(医療機関・作業所・グループホームなど)に配布しました。また、ホームページ上でも閲覧できるようにしました。

毎月 発行

(4) 機関紙「生活支援センターNEWS(磯子区版)」

機関紙を年一回発行し、磯子区役所や地域ケアプラザなど、区内の施設に設置しました。また、町内会のご協力を得て区内全域の班回覧を実施、「精神障害に関する理解」を広めると共に「生活支援センターの機能の周知」を図りました。

H29年1月 磯子区内全自治会町内会に班回覧を実施

6 地域移行・地域定着支援事業

精神科病院に入院している方に対して、入院が長期化しないように病院を訪問し、退院に向けた支援を行いました。また、退院後も安心して地域での生活を送ることができ、再び入院することがないように保健・医療・福祉が連携して必要な福祉サービスが受けられるよう支援をしました。

(平成 29 年 3 月末現在)

支援対象者	7 名 (支援中 5 名・支援終了 2 名)
支援件数	236 件 (電話、面接、訪問、同行等)
啓発活動	日野病院院内プログラム職員参加 (4 回) 延参加人数 120 名

※支援対象者はいずれも横浜市退院サポート事業の利用

7 計画相談支援事業

障害者総合支援法上の福祉サービスの利用を希望している方に対し、サービス等利用計画を作成し、一定期間ごとにサービス利用に対するモニタリングを実施しました。

(平成 29 年 3 月末現在)

支援対象者	84 名 (契約者 45 名・契約前者 1 名・終了者 38 名 (平成 28 年度終了者は 11 名))
支援件数	2,752 件 (電話、面接、訪問、同行等)

8 自立生活アシスタント事業

単身等で生活する精神障害者が安定した生活を送れるよう、訪問による生活支援や家族・近隣・職場等との連絡調整を的確に行いました。また、地域生活を支えるために、地域の資源やサービスの実施機関等と連携して支援体制を作りました。

(平成 29 年 3 月末現在)

支援対象者	20 名 (新規登録者 8 名、終了者 8 名) ※27 年度新規登録者 9 名
支援件数	2,154 件 (電話等、面接、訪問、CC)

9 地域連携・交流の推進

当事者が地域でより暮らしやすい社会にするため、日常的に地域の関係機関・団体や住民の方などとの連携や交流を推進するとともに地域に開かれた生活支援センターづくりを進めました。

(1) 運営連絡会の開催

生活支援センターの運営について種々ご意見をいただき、生活支援センターの運営に反映させて行く場として、運営連絡会を年 2 回開催しました。

5 月 29 日・11 月 24 日 開催

(2) 関係機関との連携

関係機関との連絡会議に参加し、地域課題の把握や情報の共有化を図りました。ま

た、地域課題の中から、引き続き検討や連携が必要な事項に関しては、新規に検討会、連絡会の立ち上げを行いました。

- 精神障害者支援の連携に関する検討会
- 地域ケアプラザとの連絡会や地域ケア会議への参加
- 区自立支援協議会
- 区内施設の運営委員会（シャロームの家、第2シャロームの家、工房タッチ、楷の木、いぶき、屏風ヶ浦 CP）
- その他連絡会（区精神保健福祉連絡会、発達障害児者ネットワーク連絡会）など

10 事故対策・安全管理

- (1) 事故の発生を未然に防ぐため、日頃から安全管理意識を高め、事故等の緊急時には、整備している「安全管理マニュアル」に基づき、迅速かつ的確な対応を目指しました。
- (2) 屏風ヶ浦地域ケアプラザと共同で防災訓練を年2回程度、実施しました。
- (3) 横浜市との協定に基づき非常災害時の地域の避難拠点として、備蓄物品の補充等を行いました。

防災訓練（屏風ヶ浦地域ケアプラザと合同）9月30日・3月11日実施

11 個人情報管理

個人情報の保護とリスクマネジメントの徹底により利用者に信頼と安心の提供を心がけました。当財団においては、「財団の保有する個人情報の保護に関する規定」を制定し、個人情報の適切な取り扱いに関し、必要な事項を定めるとともに、個人の権利・利益を保護するため、定期的に職員研修を行ないました。

なお、登録者台帳等、個人情報があるパソコン、メモリースティック、書類等は、業務終了時に書庫内に収納し、施錠しています。

12 人材育成・資質向上

生活支援センター職員は、常に精神等に障害のある人たちが置かれている現状に問題意識を持ち、研修にも積極的に参加し、資質の向上に努めました。

また、日々の職員会議や月1回の職員全体会議において、利用者の状況を常に把握し、必要に応じ、ケースカンファレンスの開催や個別支援計画の作成を行いました。

13 苦情の解決

生活支援センターは、その提供したサービスに関するご利用者又はご家族等からの苦情については苦情受付の窓口を設置し、迅速で適切な解決を図りました。

また、利用者ミーティングの開催やフリースペースに設置している意見箱等を通じて、利用者からの意見に耳を傾けて、センターの運営に反映させました。

横浜市磯子区精神障害者生活支援センター 平成28年度利用状況及び支援内容

(1) 利用状況及び支援内容

ア 利用者数内訳

(人)

(日)

全体	内訳					
	本人(男性)	本人(女性)	家族	ボランティア等	電話(※)	訪問同行
14,401	5,466	2,817	114	884	5,039	81

開所日数
353

(2) 相談支援

ア 相談支援

(人)

合計	電話(※)		面接		訪問・同行		面接(非構造)	
	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性
6,956	2,209	2,830	355	204	45	36	795	482
1日平均	14.3		1.6		0.2		3.6	

イ 嘱託医相談

(人)

嘱託医相談(精神科・内科)				
実施回数	合計	男性	女性	家族等
48回	17	7	3	7

(3) 生活支援

(人)

食事サービス			入浴サービス			洗濯サービス		
合計	男性	女性	合計	男性	女性	合計	男性	女性
3,177	2,139	1,038	1,070	550	520	350	214	136
1日平均	9.0		1日平均	3.0		1日平均	1.0	

(人)

インターネットサービス		
合計	男性	女性
571	527	44
1日平均	1.6	

(4) 利用登録内訳

ア 男女別・年齢別

(人)

(歳)

	～19	20～29	30～39	40～49	50～59	60～	合計
男性	0	26	67	171	121	79	464
女性	0	18	61	117	74	52	322
合計	0	44	128	288	195	131	786

最高	最低	平均
84	20	48.5
84	22	47.8
84	20	48.1

イ 区別内訳

(人)

鶴見	神奈川	西	中	南	港南	保土ヶ谷	旭	磯子	金沢
6	13	3	37	75	62	18	12	332	145
港北	緑	青葉	都筑	戸塚	栄	泉	瀬谷	その他	合計
11	4	4	6	20	20	11	6	1	786

(5) 自主企画事業

スタッフが企画をしているプログラム以外に利用者と一緒につくり上げていくプログラムや、利用者
が中心になって企画運営を行うサークル活動等を実施しています。

名称		回数	参加人数
プログラム・行事・サークル	統合失調症の「当事者学習会」	4	31
	書道教室	11	67
	カフェ	39	265
	カフェスペシャル	49	372
	働きたい人の語り場	8	30
	絵手紙教室	12	83
	散歩	11	60
	好きな音楽を語る会	12	78
	黙々会	11	66
	昼食会	4	37
	利用者ミーティング	2	20
	利用者向け「運営報告会」	1	6
	季節行事（初詣、お花見、夏祭り、年賀状づくり等）	13	75
	10周年記念「文化祭」（屏風ヶ浦地域ケアプラザと合同）	1	400
	シャロームの家と協働企画（イソット）	9	320
	鉄道模型倶楽部	1	3
かたつむりの会	8	25	
その他	運営連絡会	2	60
	防災訓練（屏風ヶ浦地域ケアプラザと合同）	2	17
合計		200	2,115

(6) 地域交流

地域の関係機関、団体との連携や交流をしています。

(人)

名 称	派遣職員延数
ボランティア講座 (区社協との共催)	9
区内施設の運営委員会、連絡会	49
その他、地域との交流 (賀詞交換会、自治会など)	2
合 計	60

(7) 地域会議等

地域の会議に参加し、課題の把握や情報の共有を行っています。

(人)

名 称	派遣職員延数
磯子区自立支援協議会 (事務局会議、検討会含む)	17
なぎさ会 (家族会)	7
その他 (発達障害連絡会、ボランティア会など)	10
合 計	34

(8) 家族支援及び地域支援事業

統合失調症の方のご家族、うつ状態の方の家族への支援及び地域住民への普及啓発を行っています。地域住民向けの普及啓発では、地域ケアプラザの協力を得て開催することができました。

(人)

名 称	回数	参加人数
統合失調症の「家族教室」(区役所・家族会との共催)	3	69
精神疾患の家族交流会	3	20
ボランティア講座 (区社協との共催)	3	19
地域ケアプラザとの共催講座 (高齢期うつ病)	1	26
合 計	10	134

(9) 普及啓発

毎月発行している「センターだより」とは別に、広報紙「うえるかむ」を区内の自治会・町内会回覧、地域ケアプラザ、地区センター等へ配布し、地域住民への普及啓発に取り組んでいます。

(10) 地域移行・地域定着支援事業 (指定一般相談支援事業および横浜市退院サポート事業)

平成25年度から「指定一般相談支援事業所」の指定を受け、障害者総合支援法に基づく地域移行支援・地域定着支援 (指定一般相談支援事業) を行っています。また、従来からの横浜市地域移行・地域定着支援事業 (通称: 横浜市退院サポート事業) を実施しています。「退院したい気持ち」を大切に、医療と福祉の連携を強化しながら、ケアマネジメントの手法に基づいた退院支援を行っています。

《個別支援》 平成 28 年度は支援対象者に延べ 236 回の支援を行いました。

○横浜市地域移行・地域定着支援事業（通称：横浜市退院サポート事業）

支援対象者数	病 名	帰 結	退院後の帰来先
7 人	・統合失調症 6 人 ・その他 1 人	・退院 1 人 ・支援継続 5 人 ・支援中止 0 人 ・支援終了 1 人	・宿泊型自立訓練施設 0 人 ・アパート設定 1 人 ・自宅（支援終了者）1 人

○地域定着支援（国事業）

支援対象者数	支援終了者
2 人	0 人

※市事業と重複利用の場合は再掲

《協働活動・普及啓発》

○日野病院との協働活動

日野病院との協働活動として、ゆかり荘・港南区生活支援センター・基幹相談支援センターと社会資源を知ること为目标とした院内プログラムを開催しました。

対象者	プログラムの目的	実施回数	平均参加人数
日野病院入院者	社会資源を知ること	4 回	30 人（延参加人数 120 人）

(1 1) 計画相談支援事業

平成 25 年度から「指定特定相談支援事業所」の指定を受け、地域で生活する当事者の自立した生活を支え、課題の解決や適切な福祉サービス利用に向けたケアマネジメントを行っています。また、障害福祉サービスを利用する際のサービス利用支援（サービス等利用計画案作成）、及び継続サービス利用支援（モニタリング）を実施しています。

○平成 25 年度からの契約者累計（人）

相談中	契約中	契約終了	合 計
1	45	38	84

○世代別・男女別（人）

	～19	20～29	30～39	40～49	50～59	60～	合計
男性	0	2	3	4	6	2	17
女性	0	5	3	6	8	6	28
合計	0	7	6	10	14	8	45

○世帯状況（人）

家族同居	単身	施設	入院中	合計
21	21	3	0	45

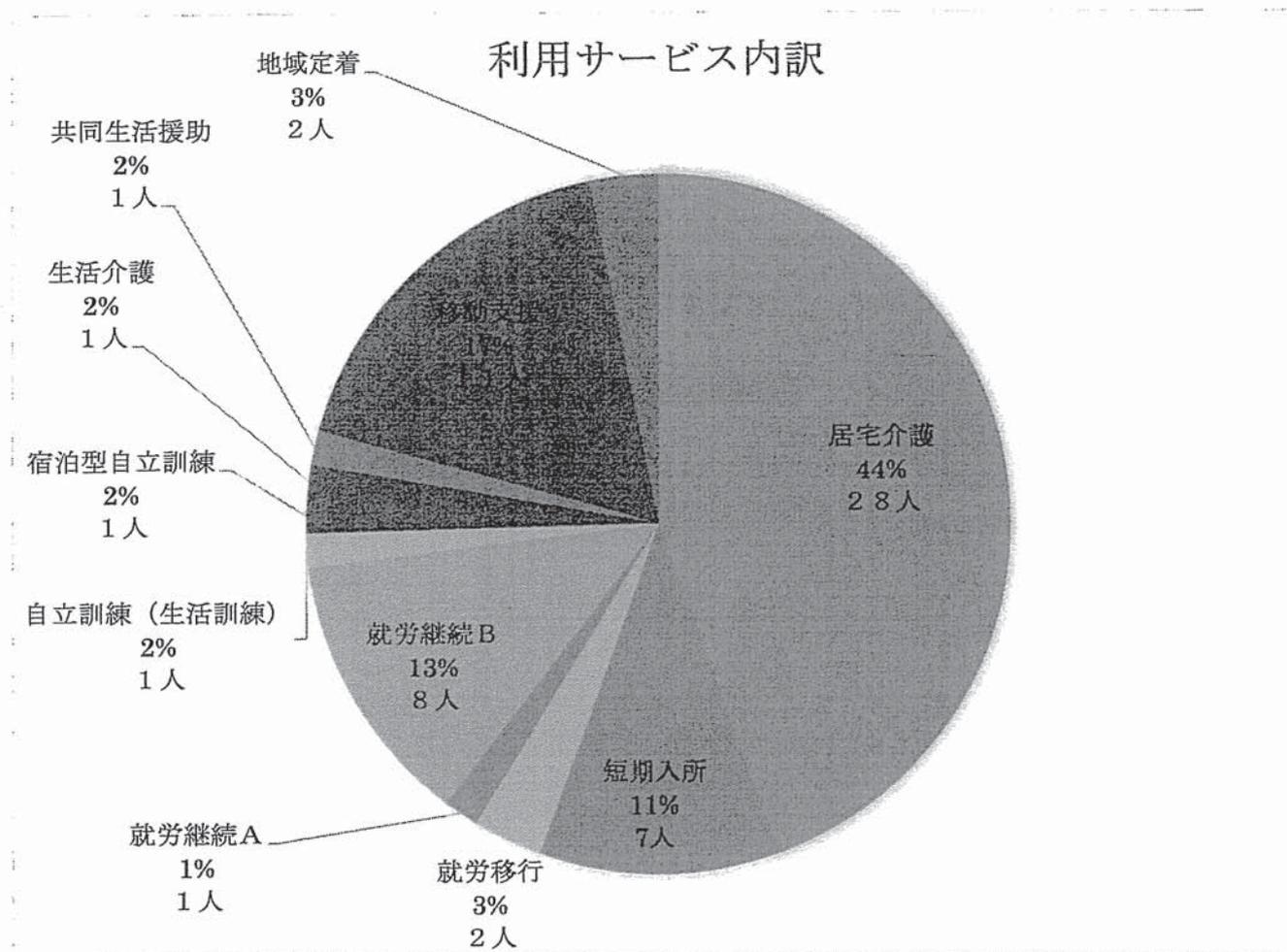
○H28年度の計画作成件数とモニタリング件数（件）

計画作成※	モニタリング
40	102

※計画作成件数は法定サービス更新時の作成も含む。

○利用サービスの内訳（※契約中の45人）

※ただし、円グラフのパーセントや人数は一人の方が複数のサービスを利用している場合も含む。



○平成28年度 援助方法（件）

面接	電話等	訪問	同行	担当者会議	打合せ	その他	合計
155	2,256	211	18	35	40	37	2,752

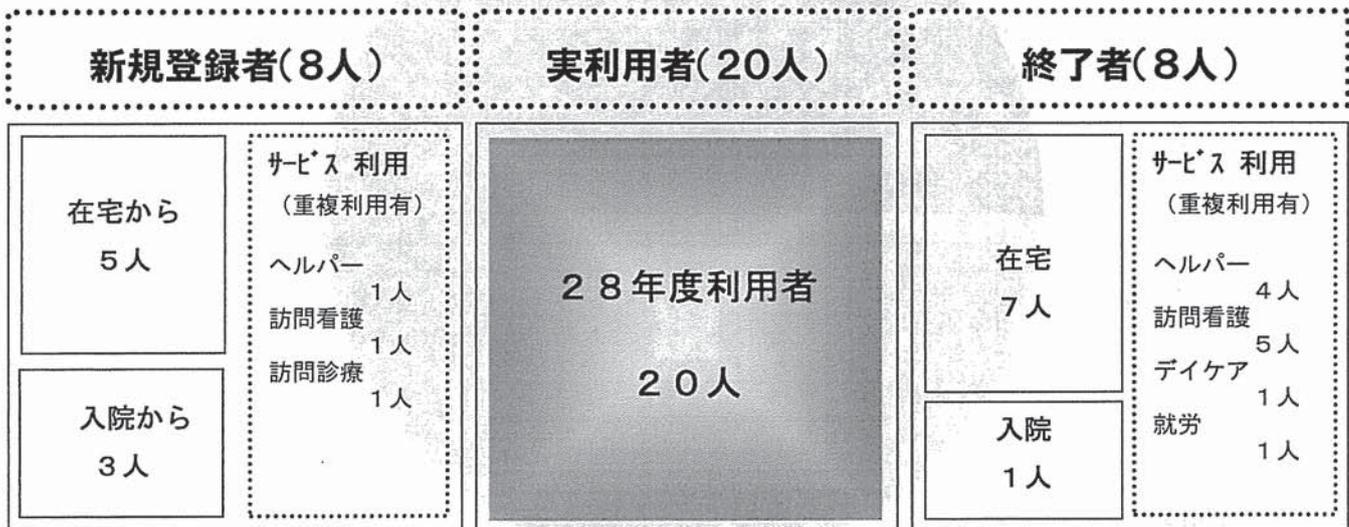
○計画相談終了の理由（H28 年度終了者 11 人）

終了理由	人数
サービス利用の終了	6
転居	3
介護保険へ移行	1
本人の希望により終了	1
合 計	11

（12）横浜市障害者自立生活アシスタント事業

単身等で生活する方を対象に、アウトリーチ（訪問）によるマンツーマンの生活支援を展開しました。施設の専門性を活かし、利用者の障害特性を踏まえた社会適応力・生活力を高めるための支援を展開しました。「自分にあった片づけ方を知り、生活空間を居心地よくしたい」「金銭管理の仕方を工夫したい」などの個別のニーズに柔軟に対応しながら、地域のサービスへの橋渡し、支援ネットワーク作りなどを行いました。本人の強み（長所）を活かし、本人にとってより自分らしい生活を目指しています。

平成28年度 自立生活アシスタント事業 利用者の状況



本表は28年度中における登録、利用、終了の状況を示したものである。したがって利用者及び終了者は28年度中の登録者とは限らない。

28年度利用者の状況、支援方法・内容

〈世代別・男女別〉

	20代	30代	40代	50代	60代	合計
男性	1	4	2	5	3	15
女性	0	1	2	2	0	5
	1	5	4	7	3	20

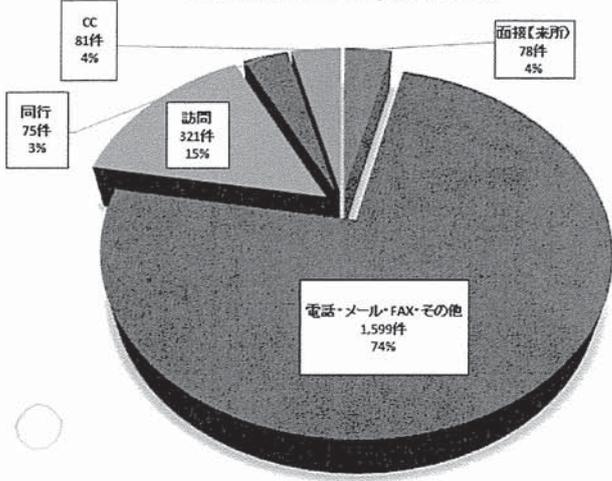
〈世帯状況〉 支援終了時・年度末時

家族同居	単身	合計
3	17	20

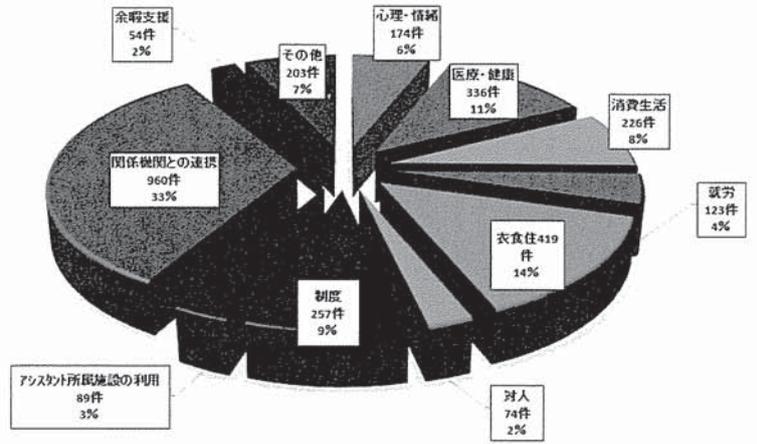
〈利用目的〉

①自立生活 (②以外)	②自立生活 (同居家族の 高齢化・死亡)	③退所後の 生活安定	④退院後の 生活安定	⑤その他	合計
14	2	0	4	0	20

支援方法(2,154件)



支援の内容(2,915件)



平成28年度磯子区生活支援センター指定管理料収支決算書
(全事業)

自平成 28 年 4 月 1 日 至平成 29 年 3 月 31 日

(単位 円)

科目		予算額	決算額	差 額	備 考
I 収入の部					
	1 指定管理料 収入	64,500,000	64,500,000	0	
A	2 利用料収入(給付費)		1,867,864	△ 1,867,864	
	3 地域相談支援及び計画相談支援に要した交通費収入		0	0	
収入合計		64,500,000	66,367,864	△ 1,867,864	
II 支出の部					
戻入精算B	1 人件費	56,273,000	56,401,832	△ 128,832	
	所長				1名
	常勤職員				5名
	非常勤職員				4名
	アルバイト	2,398,000	3,268,078	△ 870,078	臨時職員(無休化対応)
	調理アルバイト	2,406,000	2,394,623	11,377	調理アルバイト
	嘱託医賃金	1,008,000	252,000	756,000	@21,000×1回/月×12月 (その他は財団常勤医師で対応)
	法定福利費	6,028,000	6,518,777	△ 490,777	社会保険料等
	退職金給与引当金	1,700,000	1,408,567	291,433	
	福利厚生費	54,000	49,000	5,000	横浜市勤労者福祉共済掛金等
労務厚生費	138,000	127,407	10,593	健康診断経費等	
2 施設管理費	4,530,000	4,302,554	227,446		
光熱水費	1,934,000	1,694,335	239,665	電気・ガス・水道	
庁舎管理費	2,698,000	2,752,299	△ 54,299	定期清掃、設備点検、機械警備等	
修繕積立金	0	0	0		
利用者負担金充当金	△ 102,000	△ 144,080	42,080	入浴・洗濯・インターネットサービス実施徴収額光熱水費充当分	
3 運営費	3,697,000	2,436,096	1,260,904		
旅費	439,000	279,051	159,949	一般旅費	
消耗品費	919,000	394,826	524,174	事務用消耗品、訓練材料費	
印刷製本費	132,000	110,332	21,668	機関誌印刷他	
修繕費	300,000	622,530	△ 322,530	空調修理他	
通信運搬費	544,000	602,894	△ 58,894	切手代、電話料等	
賃借料	401,000	63,037	337,963	コピー保守料等	
備品等購入費	383,000	60,372	322,628	各種行事用他	
保険料	110,000	112,080	△ 2,080	賠償責任保険・障害保険料等	
雑費	469,000	190,974	278,026	各種会費、研修参加費、講師謝金他	
4 本部繰入金	0	0	0		
支出合計		64,500,000	63,140,482	1,359,518	
III 戻入精算					
A 利用料収入合計の15%				280,179	
B 人件費戻入精算分				0	
戻入合計				280,179	

横浜市磯子区生活支援センター 平成 29 年度事業報告書

磯子区生活支援センターは平成 18 年 11 月に開所以来 11 年が経過しました。屏風ヶ浦地域ケアプラザとの共催で毎年開催している「文化祭」では、非常に多くの地域の方々が来館されるなど地域に根差した交流活動などが実を結んでいます。

開設時の基本相談支援、地域活動支援に加え、平成 23 年度に「横浜市退院サポート事業、自立生活アシスタント事業」、平成 25 年度からは「指定特定相談支援事業所」・「指定一般相談支援事業所」の指定を受け開始した「計画相談支援事業」「地域移行・地域定着支援事業」など、相談支援に係る業務が増加してきています。生活支援センターに求められている基本相談支援、地域活動支援に加え、個別の相談支援機能を充実・強化し、地域の精神保健福祉の更なる充実を目指します。

【施設の方針】

磯子区生活支援センターは、日常生活の支援を通し、一人ひとりが「あんしん」や「つながり」を実感できるような地域づくりを目指します。

【平成 29 年度の重点事業】

上記の方針に基づき、次の 3 点に重きを置き、事業を実施しました。

1 「基本相談支援」の充実

(1) 来館している当事者に対して

スタッフの側から積極的に声を掛け、来館時やプログラム時の様子から生活上の変化について注意を払います。継続的な支援が必要な方については、「個別支援計画」を作成し、支援方針を共有します。

(2) 来館が困難な当事者に対して

来館が困難な当事者に対しては、これまでも訪問支援を行ってきましたが、更に多くの方との「つながり」が実現するよう積極的に訪問支援を進めます。また、定期的に訪問を行う方については、「個別支援計画」を作成し、支援方針を共有します。

SOS の発信が苦手な当事者もいるため、来館が遠のいた方については、当生活支援センターの側から積極的に連絡を取り、必要な支援を行います。

2 「計画相談支援」の充実

自立支援法内のサービスを利用する当事者の希望に応じ、「サービス利用計画」を作成し、その後も一定期間ごとにモニタリングを行います。

3 精神疾患に関する事業の継続

依然として、精神疾患に関する相談が多く寄せられていることから、引き続き、精神疾患に関する事業を開催します。

* 統合失調症の家族教室、精神疾患の家族交流会の開催

精神疾患を抱える当事者のご家族が「自分の気持ちを語れる場」「思いを共有できる場」「情報交換ができる場」として各 3 回 開催しました。

【事業の実施状況】

利用者登録状況

登録者数	545人
男女別内訳	男性 316人 女性 229人
居住区	磯子区 247人・金沢区 107人・南区 46人・港南区 38人
	中区 23人・上記以外の市内 84人
年代別	29歳以下 40人・30歳代 84人・40歳代 180人
	50歳代 156人・60歳以上 85人
平均年齢	男性 48歳 女性 47歳 全体 48歳

1 相談支援

住みなれた地域で日々安心して自分らしい生活を送ることができるよう、当事者をはじめ、ご家族、関係機関スタッフ等の相談に随時応じました。特に継続した支援が必要なケースについては、「個別支援計画」を作成し、支援方針を共有しました。また、必要に応じて、区福祉保健センターや医療機関等の関係機関との連携を図り対応しました。

(1) 電話相談

受付時間 10時から20時まで

電話相談	4,126件	(1日平均 11.7件)
------	--------	--------------

(2) 面接相談

受付時間 9時から21時まで

面接相談	1,785件	
・面接室相談	633件	(1日平均 1.8件)
・生活場面相談	1,152件	(1日平均 3.3件)

(3) 訪問・同行

引き続き、来館が困難な利用者には自宅を訪問、受診同行が必要な利用者に対して、医療機関に同行する等、必要に応じて訪問・同行支援を行いました。

訪問・同行	125件	(1ヶ月平均 0.4件)
-------	------	--------------

(4) 嘱託医相談

精神科 月3回

実施回数	36回	
相談者数	6人	(男性0人・女性5人・家族等1人)

2 場の提供

当事者に「過ごす場」を提供するとともに「各種のプログラム」や「サークル活動の場」を提供しました。いずれも活動を通じて、「何かに取り組むことの楽しさ」や「利用者同士の交流の場」を提供することを主目的としました。

(1) 過ごす場の提供

開館時間 9時から21時まで

居場所提供（来館者）	8,153人	（1日平均 23.1人）
------------	--------	--------------

(2) 各種プログラムおよびサークル活動

参加者一人ひとりが、他者との「つながり」を感じられるように展開しました。また、利用者の希望に応じ随時、新たな活動も展開しました。

プログラム・サークル名	目的・内容	回数	参加人数
統合失調症に 向き合い学ぼう	統合失調症を抱える当事者の学習の場や交流の場	4	18
書道教室	書を通じて、何かに取り組むことの楽しさを味わう	11	58
おためし de WRAP	WRAP（元気回復行動プラン）を通して自分の強み・弱さを知る事でうまく自分と付き合えるようになる	3	18
カフェ・スペカフェ	飲み物を飲みながら参加者同士の会話を楽しむ場	89	520
絵手紙教室	季節を感じ創作活動をする場	10	61
音楽を語る会	好きな音楽をきっかけに他者とのコミュニケーションをとる場	12	59
黙々会	同じ空間にいる事によりコミュニケーションのきっかけの場	11	51
散歩	目的地に行く達成感を感じる	10	39
昼食会	参加者で調理をして、皆で食事を摂る楽しさを味わう	3	37
利用者ミーティング	センターや日々の生活に関する意見交換・情報交換の場	4	22
自主活動	当事者運営の活動（かたつむりの会・鉄道模型倶楽部・横浜港見学）	6	37
運営報告会	利用者に対し、施設の運営状況を報告する場	1	10
I.S.O.T.T	地域関係機関の連携、当事者や職員のリハビリを目的とした場	13	332
季節行事・地域行事	花見等を開催し、季節感を味わう。また、夏祭り等地域の行事に参加し、市域との交流を図る	10	87

(3) 当事者活動

事務の当事者1名、ピアスタッフ1名を雇用。当該ピアスタッフを中心にプログラムの企画や運営を行いました。

横浜ピアスタッフ協会の活動や全国ピアスタッフの集いに参加するなどし、ピアスタッフについての理解を深めました。また当事者による自主的な活動の支援を行いました。

かたつむりの会	2回開催	17人参加
鉄道模型倶楽部	3回開催	9人参加
横浜港見学	年1回外出イベント	11人参加

3 生活支援サービスの提供

利用者が生き生きと地域生活を送ることができるように、各種のサービスを提供しました。

(1) 夕食サービス

1回 400円程度、申込受付 前日から当日の15時まで

夕食サービス利用者	2,755人	(1日平均 8.5人)
-----------	--------	-------------

(2) 入浴サービス

1回 100円

入浴サービス利用者	871人	(1日平均 2.5人)
-----------	------	-------------

(3) ランドリーサービス (洗濯機と乾燥機の利用)

1回 100円 (両方の使用で100円)

ランドリー利用サービス利用者	254人	(1日平均 0.7人)
----------------	------	-------------

(4) インターネット・印刷サービス

10分10円 ・ 1枚10円

インターネットサービス利用者	301人	(1日平均 0.9人)
----------------	------	-------------

4 家族支援

当センターでは、ご家族と同居している利用者が多く、ご家族からの相談も多く寄せられるため、通年でご家族に対する支援を行いました。

事業名	目的・内容	回数	参加人数
統合失調症の「家族教室」	統合失調症の当事者を家族に持つ方の学びの場・交流の場 (家族会、支援センターの共催)	3	66
精神疾患の「家族交流会」	精神疾患の当事者を家族に持つ方の語りの場・交流の場	3	23

※また、なぎさ会 (家族会) の例会や総会に職員が参加し、ご家族のご意見をお伺いすると共に情報交換を行いました。

5 広報・啓発活動

地域の方々に精神障害に関する理解を広めるとともに、当センターの機能や事業内容を周知し、利用促進を図りました。

(1) 地域ケアプラザ等との連携

屏風ヶ浦地域ケアプラザと、連絡会議を開催、ケース検討などを行いました。その他地域ケア会議に参加し、具体的な事例についての検討を行いました。

(2) 「文化祭」

屏風ヶ浦地域ケアプラザと共催の記念イベントを行い、精神障害に関する理解を広めるとともに生活支援センターの機能の周知を図りました。

10月22日(日) 10時～15時 約300人来館 (屏風ヶ浦地域ケアプラザ文化祭と同日開催)
--

(3) 「生活支援センターだより」

「生活支援センターだより」を毎月発行し、市内の関係機関（医療機関・作業所・グループホームなど）に配布しました。また、ホームページ上でも閲覧できるようにしました。

毎月 発行

6 地域移行・地域定着支援事業

精神科病院に入院している方に対して、入院が長期化しないように病院を訪問し、退院に向けた支援を行いました。また、退院後も安心して地域での生活を送ることができ、再び入院することがないように保健・医療・福祉が連携して必要な福祉サービスが受けられるよう支援をしました。

支援対象者	8名 (支援中5名・支援終了3名)
支援件数	686件(電話、面接、訪問、同行等)
啓発活動	日野病院院内プログラム職員参加(5回) 延参加人数194名 県立精神医療センター内プログラム職員参加(4回) 延参加人数24名

※支援対象者はいずれも横浜市退院サポート事業の利用者

7 計画相談支援事業

障害者総合支援法上の福祉サービスの利用を希望している方に対し、サービス等利用計画を作成し、一定期間ごとにサービス利用に対するモニタリングを実施しました。

支援対象者	108名 (契約者56名・契約前者6名・終了者46名) *平成29年度終了者は8名
支援件数	2,561件(電話、面接、訪問、同行等)

8 自立生活アシスタント事業

単身等で生活する精神障害者が安定した生活を送ることができるよう、訪問による生活支援や家族・近隣・職場等との連絡調整を的確に行いました。また、地域生活を支えるために、地域の資源やサービスの実施機関等と連携して支援体制を作りました。

支援対象者	22名 (新規登録者10名、終了者10名) ※28年度新規登録者8名
支援件数	1,819件(電話等、面接、訪問、ケースカンファレンス)

9 地域連携・交流の推進

当事者が地域でより暮らしやすい社会にするため、日常的に地域の関係機関・団体や住民の方などとの連携や交流を推進するとともに地域に開かれた生活支援センターづくりを進めました。

(1) 運営連絡会の開催

生活支援センターの運営について種々ご意見をいただき、生活支援センターの運営に反映させて行く場として、運営連絡会を年2回開催しました。

5月29日・11月24日 開催

(2) 関係機関との連携

関係機関との連絡会議に参加し、地域課題の把握や情報の共有化を図りました。また、地域課題の中から、引き続き検討や連携が必要な事項に関しては、新規に検討会、連絡会の立ち上げを行いました。

- 精神障害者支援の連携に関する検討会
- 地域ケアプラザとの連絡会や地域ケア会議への参加
- 区自立支援協議会
- 区内施設の運営委員会(シャロームの家、第2シャロームの家、工房タッチ、楳の木、いぶき、屏風ヶ浦CP)
- その他連絡会(区精神保健福祉連絡会、発達障害児者ネットワーク連絡会)など

10 事故対策・安全管理

- (1) 事故の発生を未然に防ぐため、日頃から安全管理意識を高め、事故等の緊急時には、整備している「安全管理マニュアル」に基づき、迅速かつ的確な対応を目指しました。
- (2) 屏風ヶ浦地域ケアプラザと共同で防災訓練を年2回、実施しました。
- (3) 横浜市との協定に基づき非常災害時の地域の避難拠点として、備蓄物品の補充等を行いました。

防災訓練（屏風ヶ浦地域ケアプラザと合同）9月30日・3月11日実施

11 個人情報管理

個人情報の保護とリスクマネジメントの徹底により利用者に信頼と安心の提供を心がけました。当財団においては、「財団の保有する個人情報の保護に関する規定」を制定し、個人情報の適切な取り扱いに関し、必要な事項を定めるとともに、個人の権利・利益を保護するため、定期的に職員研修を行いました。

なお、登録者台帳等、個人情報があるパソコン、メモリースティック、書類等は、業務終了時に書庫内に収納し、施錠しています。

12 人材育成・資質向上

生活支援センター職員は、常に精神等に障害のある人たちが置かれている現状に問題意識を持ち、研修にも積極的に参加し、資質の向上に努めました。

また、日々の職員会議や月1回の職員全体会議において、利用者の状況を常に把握し、必要に応じ、ケースカンファレンスの開催や個別支援計画の作成を行いました。

13 苦情の解決

生活支援センターは、その提供したサービスに関するご利用者又はご家族等からの苦情については苦情受付窓口を設置し、迅速で適切な解決を図りました。

また、利用者ミーティングの開催やフリースペースに設置している意見箱等を通じて、利用者からの意見に耳を傾けて、センターの運営に反映させました。

横浜市磯子区精神障害者生活支援センター

(1) 利用状況及び支援内容

ア 利用者数内訳

(人)

(日)

全体	内訳					
	本人(男性)	本人(女性)	家族	ボランティア等	電話(※)	訪問同行
13,270	5,678	2,475	85	781	4,126	125

開所日数
353

(2) 相談支援

ア 相談支援

(人)

合計	電話		面接		訪問・同行		面接(非構造)	
	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性
6,036	1,927	2,199	371	262	80	45	732	420
1日平均	11.7		1.8		0.4		3.3	

イ 嘱託医相談

(人)

嘱託医相談(精神科・内科)				
実施回数	合計	男性	女性	家族等
36回	6	0	5	1

(3) 生活支援

(人)

食事サービス			入浴サービス			洗濯サービス		
合計	男性	女性	合計	男性	女性	合計	男性	女性
2,755	2,221	534	871	369	502	254	204	50
1日平均	8.5		1日平均	2.5		1日平均	0.7	

(人)

インターネットサービス		
合計	男性	女性
301	170	131
1日平均	0.9	

(4) 利用登録内訳

ア 男女別・年齢別

(人)

(歳)

	～19	20～29	30～39	40～49	50～59	60～	合計
男性	0	19	47	107	93	50	316
女性	0	21	37	73	63	35	229
合計	0	40	84	180	156	85	545

最高	最低	平均
84	21	48
90	22	47

イ 区別内訳

(人)

鶴見	神奈川	西	中	南	港南	保土ヶ谷	旭	磯子	金沢
3	8	3	23	46	38	11	7	247	107
港北	緑	青葉	都筑	戸塚	栄	泉	瀬谷	その他	合計
11	3	2	3	10	11	11	1	0	545

(5) 自主企画事業

スタッフが企画をしているプログラム以外に利用者と一緒により作り上げていくプログラムや、利用者が中心になって企画運営を行うサークル活動等を実施しています。

名称		回数	参加人数
プログラム・行事	統合失調症に向き合い学ぼう	4	18
	おためし de WRAP	3	18
	書道教室	11	58
	カフェ・スペカフェ	89	520
	絵手紙教室	10	61
	散歩	10	39
	好きな音楽を語る会	12	59
	黙々会	11	51
	昼食会	3	37
	利用者ミーティング	4	22
	利用者向け運営報告会 (H30.4 に 29 年度報告会開催)	1	10
	季節行事 (初詣、お花見、夏祭り、年賀状づくり等)	10	87
	「文化祭」(屏風ヶ浦地域ケアプラザと合同)	1	300
	シャロームの家と協働企画 (イソット)	13	332
自主活動	鉄道模型倶楽部	3	9
	かたつむりの会	2	17
	横浜港見学	1	11
その他	運営連絡会	2	50
	防災訓練 (屏風ヶ浦地域ケアプラザと合同)	2	21
合計		192	1,720

(6) 地域交流

地域の関係機関、団体との連携や交流をしています。

(人)

名 称	派遣職員延数
ボランティア講座（区社協・区役所との共催）	9
区内施設の運営委員会、連絡会	35
基幹・甲突寮合同研修・連絡会（地域移行について考えよう）	9
その他、地域との交流（賀詞交換会、自治会など）	2
合 計	55

(7) 地域会議等

地域の会議に参加し、課題の把握や情報の共有を行っています。

(人)

名 称	派遣職員延数
磯子区自立支援協議会（事務局会議、検討会含む）	20
3 機関連携定例カンファレンス	21
なぎさ会（家族会）	4
その他（発達障害連絡会、ボランティア会など）	5
合 計	50

(8) 家族支援及び地域支援事業

統合失調症の方のご家族、うつ状態の方の家族への支援及び地域住民への普及啓発を行っています。地域住民向けの普及啓発では、地域ケアプラザの協力を得て開催することができました。

(人)

名 称	回数	参加人数
統合失調症の「家族教室」（区役所・家族会との共催）	3	66
精神疾患の家族交流会	3	23
ボランティア講座（区社協・区役所との共催）	2	25
合 計	8	114

(9) 普及啓発

「生活支援センターだより」を毎月発行し、市内の関係機関（医療機関・作業所・グループホームなど）に配布し、ホームページ上でも閲覧できるようにしました。地域の方々に精神障害に関する理解を広めるとともに、当センターの機能や事業内容を周知し、利用促進を図りました。

(10) 地域移行・地域定着支援事業（指定一般相談支援事業および横浜市退院サポート事業）

平成25年度から「指定一般相談支援事業所」の指定を受け、障害者総合支援法に基づく地域移行支援・地域定着支援（指定一般相談支援事業）を行っています。また、従来からの横浜市地域移行・地域定着支援事業（通称：横浜市退院サポート事業）を実施しています。「退院したい気持ち」を大切に、医療と福祉の連携を強化しながら、ケアマネジメントの手法に基づいた退院支援を行っています。

《個別支援》 平成 29 年度は支援対象者に延べ 686 回の支援を行いました。

○横浜市地域移行・地域定着支援事業（通称：横浜市退院サポート事業）

支援対象者数	病 名	帰 結	退院後の帰来先
8 人	・統合失調症 6 人 ・その他 2 人	・退院 3 人 ・支援継続 5 人	・宿泊型自立訓練施設 2 人 ・アパート設定 1 人

○地域移行支援事業（国事業）

支援対象者数	支援終了者
1 人	0 人

※市事業と重複利用の場合は再掲

○地域定着支援事業（国事業）

支援対象者数	支援終了者
2 人	0 人

《協働活動・普及啓発》

横浜市地域移行・地域定着支援事業の一環として、病院職員との協働活動を実施し、入院中患者や病棟職員らに対する普及啓発および、関係機関との連携強化に努めています。

○日野病院との協働活動

ゆかり荘の他 近隣区の磯子区基幹相談支援センター・港南区生活支援センター・港南区基幹相談支援センター・金沢区生活支援センター・金沢区基幹相談支援センター・泉区基幹相談支援センターと一緒に、慢性病棟患者（長期入院者）と病院スタッフを対象とした地域交流会を実施しました。

対象者	内容	実施回数	平均参加人数
日野病院入院者 日野病院スタッフ	①生活講座 ②ピア活動 ③買物支援 ④退院支援 ⑤振り返り	5 回	38.8 人（延参加人数 194 人）

○県立精神医療センターとの協働活動

地域移行病棟に地域の支援者が日常的に出入りし、入院患者が地域支援者と自然なかたちでコミュニケーションが取れるようにしていきたいとの要望を受け、病棟の退院支援プログラムに退院サポート事業の協働活動推進部会に所属する港南区生活支援センター・金沢区生活支援センター・保土ヶ谷区生活支援センター・栄区生活支援センターと分担して参加しました。経験の浅いスタッフが担当し病棟に入るきっかけとなる等、病院、生活支援センターの双方にメリットがありました。

対象者	内容	実施回数	平均参加人数
県立精神医療センター 入院者	衣・食・住・余暇、1 テーマずつに導入、確認、実施、振り返りを実施	16 回	6 人（延参加人数 96 人）

(11) 計画相談支援事業

平成25年度から「指定特定相談支援事業所」の指定を受け、地域で生活する当事者の自立した生活を支え、課題の解決や適切な福祉サービス利用に向けたケアマネジメントを行っています。また、障害福祉サービスを利用する際のサービス利用支援（サービス等利用計画案作成）、及び継続サービス利用支援（モニタリング）を実施しています。

○平成25年度からの契約者累計（人）

相談中	契約中	契約終了	合計
6	56	46	108

○世代別・男女別（契約中56人）

	～19	20～29	30～39	40～49	50～59	60～	合計
男性	0	2	6	2	7	8	25
女性	0	6	3	7	10	5	31
合計	0	8	9	9	17	13	56

○世帯状況（契約中56人）

家族同居	単身	施設	入院中	合計
28	26	1	1	56

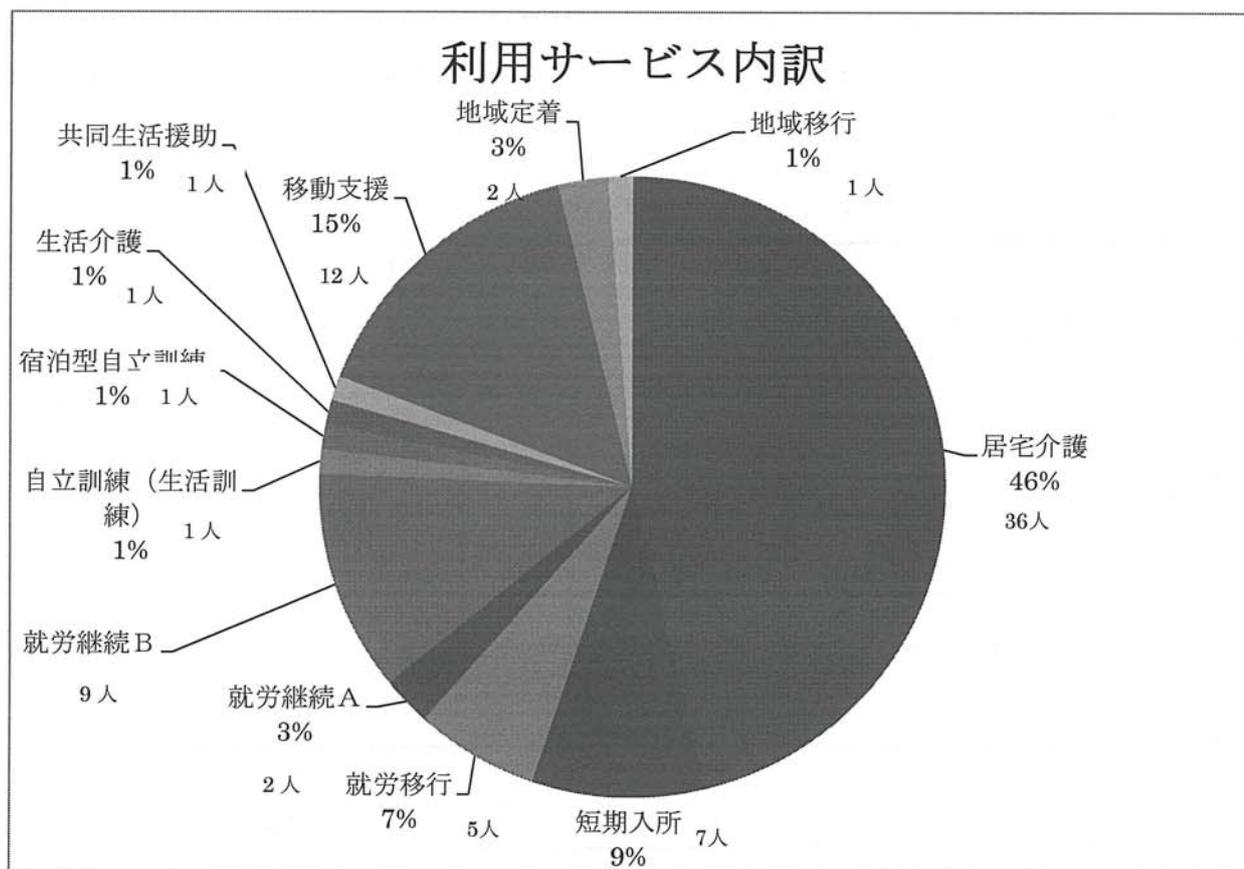
○H29年度の計画作成件数とモニタリング件数（件）

計画作成※	モニタリング
33	109

※計画作成件数は法定サービス更新時の作成も含む。

○利用サービスの内訳（※契約中の56人）

※ただし、円グラフのパーセントや人数は一人の方が複数のサービスを利用している場合も含む。



○平成29年度 援助方法（件）

面接	電話等	訪問	同行	担当者会議	打合せ	その他	合計
192	1862	290	20	80	46	71	2561

○計画相談終了の理由（H29年度終了者8人）

終了理由	人数
サービス利用の終了	3
体調悪化のため	2
介護保険へ移行	2
本人の希望により終了	1
合計	8

(12) 横浜市障害者自立生活アシスタント事業

単身等で生活する方を対象に、アウトリーチ（訪問）によるマンツーマンの生活支援を展開しました。施設の専門性を活かし、利用者の障害特性を踏まえた社会適応力・生活力を高めるための支援を展開しました。「自分にあった片づけ方を知り、生活空間を居心地よくしたい」「金銭管理の仕方を工夫したい」などの個別のニーズに柔軟に対応しながら、地域のサービスへの橋渡し、支援ネットワーク作りなどを行いました。本人の強み（長所）を活かし、本人にとってより自分らしい生活を目指しています。

平成29年度 自立生活アシスタント事業 利用者の状況



本表は29年度中における登録、利用、終了の状況を示したものである。したがって利用者及び終了者は29年度中の登録者とは限らない。

29年度利用者の状況、支援方法・内容

<世代別・男女別>

	20代	30代	40代	50代	60代	合計
男性	0	3	4	7	1	15
女性	0	3	3	1	0	7
	0	6	7	8	1	22

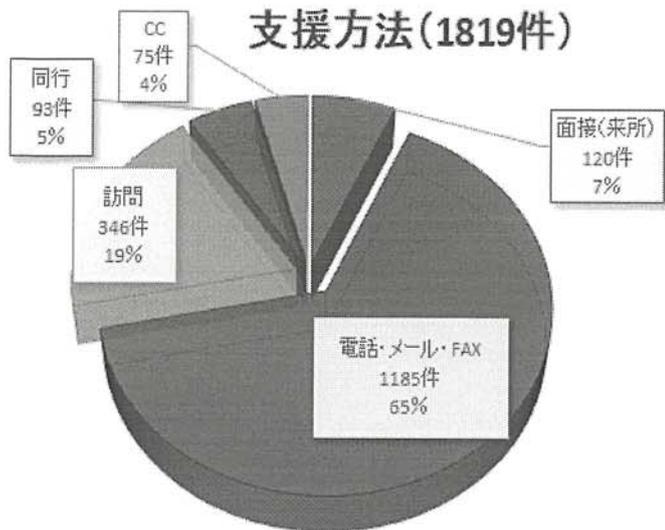
<利用目的>

①自立生活 (②以外)	②自立生活 (同居家族の 高齢化・死亡)	③退所後の 生活安定	④退院後の 生活安定	⑤その他	合計
19	2	1	0	0	22

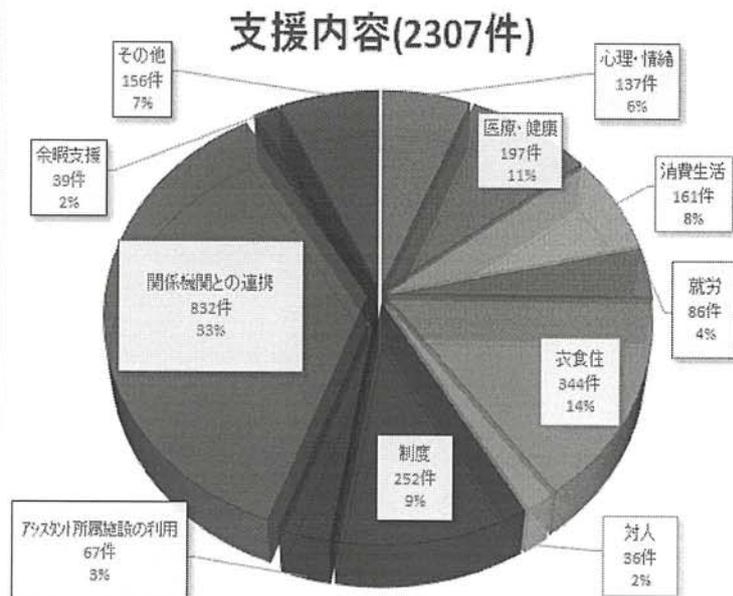
<帯状況>

家族同居	単身	合計
6	16	22

支援方法(1819件)



支援内容(2307件)



平成29年度磯子区生活支援センター指定管理料収支決算書
(全事業)

自平成 29 年 4 月 1 日 至平成 30 年 3 月 31 日

(単位 円)

科目	予算額	決算額	差 額	備 考	
I 収入の部					
1 指定管理料収入	64,500,000	64,500,000	0		
2 指定管理料収入(防犯)	65,988	65,988	0		
A 3 利用料収入(給付費)		2,253,944	△ 2,253,944		
4 地域相談支援及び計画相談支援に要した交通費収入		0	0		
収入合計	64,565,988	66,819,932	△ 2,253,944		
II 支出の部					
1 人件費	56,273,000	62,629,644	△ 6,356,644		
戻入精算B	所長			1名	
	常勤職員			5名	
	非常勤職員			4名	
	アルバイト	2,398,000	3,103,746	△ 705,746	臨時職員(無休化対応)
	調理アルバイト	2,406,000	1,859,882	546,118	調理アルバイト
	嘱託医賃金	1,008,000	0	1,008,000	
	法定福利費	6,028,000	7,558,616	△ 1,530,616	社会保険料等
	退職金給与引当金	1,700,000	2,027,137	△ 327,137	
	福利厚生費	54,000	63,000	△ 9,000	横浜市勤労者福祉共済掛金等
	労務厚生費	138,000	132,623	5,377	健康診断経費等
2 施設管理費	4,530,000	4,308,968	221,032		
光熱水費	1,934,000	1,755,166	178,834	電気・ガス・水道	
庁舎管理費	2,698,000	2,678,642	19,358	定期清掃、設備点検、機械警備等	
修繕積立金	0	0	0		
利用者負担金充当金	△ 102,000	△ 124,840	22,840	入浴・洗濯・インターネットサービス実施徴収額光熱水費充当分	
3 運営費	3,697,000	1,916,882	1,780,118		
旅費	439,000	369,627	69,373	一般旅費	
消耗品費	919,000	460,224	458,776	事務用消耗品、訓練材料費	
印刷製本費	132,000	24,312	107,688	機関誌印刷他	
修繕費	300,000	26,784	273,216	備品修繕等	
通信運搬費	544,000	483,669	60,331	切手代、電話料等	
賃借料	401,000	71,724	329,276	コピー保守料等	
備品等購入費	383,000	99,360	283,640	各種行事用他	
保険料	110,000	112,080	△ 2,080	賠償責任保険・障害保険料等	
雑費	469,000	269,102	199,898	各種会費、研修参加費、講師謝金他	
4 本部繰入金	0	0	0		
5 防犯対策費	65,988	65,988	0		
支出合計	64,565,988	68,921,482	△ 4,355,494		
III 戻入精算					
A 利用料収入合計の15%			338,091		
B 人件費戻入精算分			0		
戻入合計			338,091		

横浜市磯子区精神障害者生活支援センター 平成 30 年度事業報告書

磯子区生活支援センターでは、精神障害のある方々が地域の中で安心して生活できるよう、また自立と社会参加の促進を図るために、相談支援、生活支援サービスの提供、フリースペースの提供等各種事業や当事者活動への支援を通して精神障害者のリカバリーに資することを目指しています。またサービス利用計画書の作成等を行う計画相談支援事業など個別支援に係る業務を引き続き実施することにより利用者支援の充実強化を図りました。

加えて、平成 30 年度は、生活支援センターA 型館、B 型館のサービス提供に係る標準化推進のためのモデル事業を受託し、標準化に向けての検証作業に協力しました。

【施設の方針】

磯子区生活支援センターは、日常生活の支援を通し、一人ひとりが「あんしん」や「つながり」を実感できるような地域づくりを目指します。

【平成 30 年度重点取組事業】

上記の方針に基づき、以下の事業を実施しました。

1 相談支援の充実

(1) 計画相談支援（指定特定相談支援）

横浜市では平成 30 年度末には、障害福祉サービスの利用計画をご自分で作成する方以外の全ての方に、サービス等利用計画の策定を行うこととしており、全市的に、今後ますます計画相談支援のニーズが増えることが予想されます。その為、サービス利用計画策定に係る実施体制を強化し、より多くの利用者の利用希望に応えられるよう重点事業として位置づけ、障害者の自立した生活を支え、その人にとって適切な障害福祉サービスを受けられるようケアマネジメントの手法に基づき支援しました。

(2) 自立生活援助事業

平成 31 年 1 月から「自立生活援助事業所」の指定を受け、障害者支援施設やグループホーム、精神科病院等から地域での一人暮らしに移行した障害者の方及び、单身等により自立生活援助の支援が必要な障害者の方に対し、定期的な巡回訪問や随時の対応により地域での居宅生活を支援しました。

(3) 基幹相談支援センター・区福祉保健センターとの協働

平成 28 年度からいそご地域活動ホームいぶきが、磯子区基幹相談支援センターとして位置づけられ、当該基幹相談支援センター、区福祉保健センター、生活支援センターの 3 者が協働し、それぞれの強みを活かし、また相互に補い合うような形で磯子区の精神保健福祉に係る相談支援体制を牽引していくこととしています。磯子区の精神保健福祉の土台を築いていけるよう、こうした取り組みに積極的に関与しました。

- (4) 磯子区生活支援センターがピア活動のランドマークとなるような活動の展開
 障害者のリカバリーのためには、それぞれが自分の強みを活かした活動を行い、
 自分らしく生きていくことが最も重要とされています。こうした取り組みの一つ
 として就労継続支援B型事業所や地域活動センターなどとイベントやプログラムを
 共催しました。

2 地域や関係機関との連携

当事者が地域でより暮らしやすい社会を目指して、精神障害について広く地域の理解を
 深めること、また身近な相談機関として早めの相談支援へとつながるよう取り組んでいま
 す。そのため日常的に地域の関係機関・団体や住民の方などとの連携や交流を深めると
 共に、地域に開かれた生活支援センターづくりを進めるため、精神保健福祉に関する普及
 啓発事業の実施、地域の関係機関等と連携することなどにより、地域の課題などを早期に
 把握し解決していくために関係機関相互の連携を深めました。

3 当事者との協働

当事者と協働してイベントやプログラムの運営を行い、当事者の方が持っている力を
 発揮し、主体となって活動できるよう支援しました。

【事業の実施状況】

利用者登録状況

登録者数	545人
男女別内訳	男性 312人 女性 233人
居住区	磯子区 253人・金沢区 102人・南区 42人・港南区 41人 中区 25人・上記以外の市内 82人
年代別	29歳以下 35人・30歳代 82人・40歳代 173人 50歳代 155人・60歳以上 100人
平均年齢	男性 49歳 女性 49歳 全体 49歳

1 相談支援

住みなれた地域で日々安心して自分らしい生活を送ることができるよう、当事者をは
 じめ、ご家族、関係機関スタッフ等の相談に応じました。特に継続した支援が必要
 なケースについては、「個別支援計画」を作成し、支援方針を共有しました。また、
 必要に応じて、区福祉保健センターや医療機関等の関係機関との連携を図り対応しま
 した。

(1) 電話相談

受付時間 10時から19時まで

電話相談	3,429件	(1日平均 11.1件)
------	--------	--------------

(2) 面接相談

受付時間 9時から21時まで

面接相談	1,490件		
・面接室相談	573件	(1日平均	1.8件)
・生活場面相談	917件	(1日平均	3件)

(3) 訪問・同行

引き続き、来館が困難な利用者には自宅を訪問、受診同行が必要な利用者に対して、医療機関に同行する等、必要に応じて訪問・同行支援を行いました。

訪問・同行	422件	(1ヶ月平均	1.4件)
-------	------	--------	-------

(4) 嘱託医相談

精神科 月3回

実施回数	34回		
相談者数	5人	(男性2人・女性1人・家族等2人)	

2 場の提供

当事者に「快適に過ごせる場」を提供するとともに「各種プログラム」や「サークル活動の場」を提供しました。参加者の一人ひとりが、事業を通し主体的に取り組む事で、自分らしさを発揮できるよう、ボランティア、関係機関と連携を図りながら取り組みました。

(1) 過ごす場の提供

開館時間 9時から19時まで

居場所提供(来館者)	6,093人	(1日平均	19.6人)
------------	--------	-------	--------

(2) 各種プログラムおよびサークル活動

参加者一人ひとりが、他者との「つながり」を感じられるように展開しました。また、利用者の希望に応じ随時、新たな活動も展開しました。

プログラム・サークル名	目的・内容	回数	参加人数
自分に 向き合い学ぼう	統合失調症を抱える当事者の学習の場や交流の場	4	27
書道教室	書を通じて、何かに取り組むことの楽しさを味わう	12	76
カフェ	飲み物を飲みながら参加者同士の会話を楽しむ場	51	368

絵手紙教室	季節を感じ創作活動をする場	10	56
黙々会	同じ空間にいる事によりコミュニケーションのきっかけの場	24	148
散歩	目的地に行く達成感を感じる	10	41
利用者ミーティング	センターや日々の生活に関する意見交換・情報交換の場	11	74
いそご体操	体を動かす機会の提供	41	149
磯子ECO倶楽部	清掃活動を通じて地域に貢献する	6	20
自主活動	当事者運営の活動(鉄道模型倶楽部・横浜港見学)	11	48
運営報告会	利用者に対し、施設の運営状況を報告する場	1	10
季節行事 地域行事	花見等を開催し、季節感を味わう。また、夏祭り等地域の行事に参加し、市域との交流を図る	7	36

(3) 当事者活動

事務の当事者雇用1名、ピアスタッフ1名を雇用し、当該ピアスタッフを中心にプログラムの企画や運営を行いました。

また、当事者による自主的な活動の支援を行いました。

鉄道模型倶楽部	月1回開催	7回開催	21人参加
アートワーク	平成31年度3月より開催	2回開催	10人参加
横浜港見学	利用者企画外出イベント	1回開催	13人参加
		打ち合わせ	4人参加

3 生活支援サービスの提供

利用者が生き生きと地域生活を送ることができるように、各種のサービスを提供しました。

(1) 夕食サービス

1回 400円程度、申込受付 前日から当日の15時まで

夕食サービス利用者(実施日265日)	2,160人	(1日平均 8.2人)
--------------------	--------	-------------

(2) 入浴サービス

1回 100円

入浴サービス利用者	595人	(1日平均 1.9人)
-----------	------	-------------

(3) ランドリーサービス(洗濯機と乾燥機の利用)

1回 100円(両方の使用で100円)

ランドリー利用サービス利用者	220人	(1日平均 0.7人)
----------------	------	-------------

(4) インターネット・印刷サービス

10分10円 ・ 1枚10円

インターネットサービス利用者	80人	(1日平均 0.3人)
----------------	-----	-------------

4 家族支援

当センターでは、ご家族と同居している利用者が多く、ご家族からの相談も多く寄せられるため、通年でご家族に対する支援を行いました。

事業名	目的・内容	回数	参加人数
統合失調症の「家族教室」	統合失調症の当事者を家族に持つ方の学びの場・交流の場（家族会、支援センターの共催）	3	60
精神疾患の「家族交流会」	精神疾患の当事者を家族に持つ方の語りの場・交流の場	2	13

※また、なぎさ会（家族会）の例会や総会に職員が参加し、ご家族のご意見をお伺いすると共に情報交換を行いました。

5 広報・啓発活動

地域の方々に精神障害に関する理解を広めるとともに、当センターの機能や事業内容を周知し、利用促進を図りました。

(1) 地域ケアプラザ等との連携

屏風ヶ浦地域ケアプラザと連絡会議を開催し、ケース検討などを行いました。その他地域ケア会議に参加し、具体的な事例についての検討を行いました。

(2) 「文化祭」

屏風ヶ浦地域ケアプラザと共催の記念イベントを行い、「精神障害に関する理解」を広めるとともに生活支援センターの機能の周知を図りました。

11月11日（日）10時～15時 約500人来館 (屏風ヶ浦地域ケアプラザ文化祭と同一日開催)
--

(3) 「生活支援センターだより」

「生活支援センターだより」を毎月発行し、市内の関係機関（医療機関・作業所・グループホームなど）に配布しました。また、ホームページ上でも閲覧できるようにしました。

毎月 発行

6 横浜市地域移行・地域定着支援事業（横浜市退院サポート事業）

精神科病院に入院している方に対して、入院が長期化しないように病院を訪問し、退院に向けた支援を行いました。また、退院後も安心して地域での生活を送ることができ、再び入院することがないように保健・医療・福祉が連携して必要な福祉サービスが受けられるよう支援をしました。

支援対象者	11名 (支援中4名・支援終了7名)
支援件数	707件（電話、面接、訪問、同行等）
啓発活動	病院関係者向け地域移行支援説明・情報交換会（3回） 延参加人数25名 精神連絡会 地域移行支援勉強会（3回） 延参加人数55名

※支援対象者はいずれも横浜市退院サポート事業の利用者

7 計画相談支援事業

障害者総合支援法上の福祉サービスの利用を希望している方に対し、サービス等利用計画を作成し、一定期間ごとにサービス利用に対するモニタリングを実施しました。

支援対象者 (平成25年度からの累計)	125名 (契約者66名・契約前者3名・終了者56名)*平成30年度終了者は9名
支援件数	3,461件（電話、面接、訪問、同行等）

8 自立生活アシスタント事業

単身等で生活する精神障害者が安定した生活を送ることができるよう、訪問による生活支援や家族・近隣・職場等との連絡調整を的確に行いました。また、地域生活を支えるために、地域の資源やサービスの実施機関等と連携して支援体制を作りました。

支援対象者	17名 (新規登録者5名、終了者12名) ※29年度新規登録者10名
支援件数	1,901件（電話等、面接、訪問、CC）

9 地域連携・交流の推進

当事者が地域でより暮らしやすい社会にするため、日常的に地域の関係機関・団体や住民の方などとの連携や交流を推進するとともに地域に開かれた生活支援センターづくりを進めました。

(1) 運営連絡会の開催

生活支援センターの運営について種々ご意見をいただき、生活支援センターの運営に反映させて行く場として、運営連絡会を年2回開催しました。

5月29日・11月24日 開催

(2) 関係機関との連携

関係機関との連絡会議に参加し、地域課題の把握や情報の共有化を図りました。また、定期的に地域ケアプラザを訪問するなどし、気軽に相談できる関係づくりに改めて取り組みました。

- 精神障害者支援の連携に関する検討会
- 地域ケアプラザとの連絡会や地域ケア会議への参加
- 区自立支援協議会
- 区内施設の運営委員会（シャロームの家、森の庭、工房タッチ、楷の木、いぶき、屏風ヶ浦CP）
- その他連絡会（区精神保健福祉連絡会、発達障害児者ネットワーク連絡会）など

10 事故対策・安全管理

(1) 事故の発生を未然に防ぐため、日頃から安全管理意識を高め、事故等の緊急時には、整備している「安全管理マニュアル」に基づき、迅速かつ的確な対応を目指しました。

(2) 屏風ヶ浦地域ケアプラザと共同で防災訓練を年2回、実施しました。

(3) 横浜市との協定に基づき非常災害時の地域の避難拠点として、備蓄物品の補充等を行いました。

防災訓練（屏風ヶ浦地域ケアプラザと合同）9月30日・3月11日実施

11 個人情報管理

個人情報の保護とリスクマネジメントの徹底により利用者に信頼と安心の提供を心がけました。当財団においては、「財団の保有する個人情報の保護に関する規定」を制定し、個人情報の適切な取り扱いに関し、必要な事項を定めるとともに、個人の権利・利益を保護するため、定期的に職員研修を行いました。

なお、登録者台帳等、個人情報があるパソコン、メモリースティック、書類等は、業務終了時に書庫内に収納し、施錠しています。

12 人材育成・資質向上

生活支援センター職員は、常に精神等に障害のある人たちが置かれている現状に問題意識を持ち、研修にも積極的に参加し、資質の向上に努めました。

また、日々の職員会議や月1回の職員全体会議において、利用者の状況を常に把握し、必要に応じ、ケースカンファレンスの開催や個別支援計画の作成を行いました。

13 苦情の解決

生活支援センターは、その提供したサービスに関するご利用者又はご家族等からの苦情については苦情受付の窓口を設置し、迅速で適切な解決を図りました。

また、利用者ミーティングの開催やフリースペースに設置している意見箱等を通じて、利用者からの意見に耳を傾けて、センターの運営に反映させました。

横浜市磯子区精神障害者生活支援センター

(1) 利用状況及び支援内容

ア 利用者数内訳

(人)

(日)

全体	内訳					
	本人(男性)	本人(女性)	家族	ボランティア等	電話(※)	訪問同行
10,692	4,600	1,493	103	645	3,429	422

開所日数
310

(2) 相談支援

ア 相談支援

(人)

合計	電話		面接		訪問・同行		面接(非構造)	
	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性
5,341	1,834	1,595	394	179	279	143	642	275
1日平均	11.1		1.8		1.4		3.0	

イ 嘱託医相談(人)

嘱託医相談(精神科・内科)				
実施回数	合計	男性	女性	家族等
34回	5	2	1	2

(3) 生活支援

(人)

食事サービス(実施日 265日)			入浴サービス			洗濯サービス		
合計	男性	女性	合計	男性	女性	合計	男性	女性
2,160	1,875	285	595	284	311	220	167	53
1日平均	8.2		1日平均	1.9		1日平均	0.7	

(人)

インターネットサービス		
合計	男性	女性
80	37	43
1日平均	0.3	

(4) 利用登録内訳

ア 男女別・年齢別

(人)

(歳)

	～19	20～29	30～39	40～49	50～59	60～	合計
男性	1	17	44	108	84	58	312
女性	0	17	38	65	70	43	233
合計	1	34	82	173	154	101	545

最高	最低	平均
76	19	49
91	23	49

イ 区別内訳

(人)

鶴見	神奈川	西	中	南	港南	保土ヶ谷	旭	磯子	金沢
3	11	3	25	42	41	9	6	253	102
港北	緑	青葉	都筑	戸塚	栄	泉	瀬谷	その他	合計
9	3	1	2	10	14	11	0	0	545

(5) 自主企画事業

スタッフが企画をしているプログラム以外に利用者と一緒に作り上げていくプログラムや、利用者が中心になって企画運営を行うサークル活動等を実施しています。

名 称		回数	参加人数
プログラム・行事	自分に向き合い学ぼう	4	27
	書道教室	12	76
	カフェ	51	368
	絵手紙教室	10	56
	散歩	10	41
	黙々会	24	148
	いそご体操	41	149
	磯子 ECO 倶楽部	6	20
	利用者ミーティング	11	74
	利用者向け運営報告会	1	10
	季節行事 (初詣、お花見、夏祭り、年賀状づくり等)	7	36
「文化祭」(屏風ヶ浦地域ケアプラザと合同)	1	500	
自主活動	鉄道模型倶楽部	7	21
	アートワーク	2	10
	横浜港見学 (打合せ含む)	2	17
その他	運営連絡会	2	41
	防災訓練 (屏風ヶ浦地域ケアプラザと合同)	2	15
合 計		193	1,609

(6) 地域交流

地域の関係機関、団体との連携や交流を行いました。

(人)

名 称	派遣職員延数
ボランティア講座（区社協・区役所との共催）	14
区内施設の運営委員会	10
基幹・甲突寮合同研修“地域で支える仕組みを考えよう”	30
磯子区家族会なぎさ会の定例会	15
その他、地域との交流（賀詞交換会、自治会など）	25
合 計	94

(7) 地域会議等

地域の会議に参加し、課題の把握や情報の共有を行いました。

(人)

名 称	派遣職員延数
磯子区自立支援協議会（事務局会議、検討会含む）	94
3 機関連携定例カンファレンス	36
区障害担当連絡会	20
屏風浦ケアプラザ連絡会	17
その他（若者支援連絡会、生活困窮者自立支援制度会議など）	16
合 計	183

(8) 家族支援事業

統合失調症の方のご家族、その他の精神疾患の方のご家族への支援を行いました。

(人)

名 称	回数	参加人数
統合失調症の「家族教室」（区役所・家族会との共催）	3	60
精神疾患の家族交流会	2	13
合 計	5	73

(9) 普及啓発

「生活支援センターだより」を毎月発行し、市内の関係機関（医療機関・作業所・グループホームなど）に配布し、ホームページ上でも閲覧できるようにしました。地域の方々に精神障害に関する理解を広めるとともに、当センターの機能や事業内容を周知し、利用促進を図りました。

(10) 地域移行・地域定着支援事業（指定一般相談支援事業および横浜市退院サポート事業）

平成25年度から「指定一般相談支援事業所」の指定を受け、障害者総合支援法に基づく地域移行支援・地域定着支援（指定一般相談支援事業）を行っています。また、従来からの横浜市地域移行・地域定着支援事業（通称：横浜市退院サポート事業）を実施しています。「退院したい気持ち」を大切に、医療と福祉の連携を強化しながら、ケアマネジメントの手法に基づいた退院支援を行っています。

《個別支援》 平成 30 年度は支援対象者に延べ 1047 回の支援を行いました。

○横浜市地域移行・地域定着支援事業（通称：横浜市退院サポート事業）

支援対象者数	病 名	帰 結	退院後の帰来先
11 人	・統合失調症 8 人 ・その他 3 人	・退院 5 人 ・支援継続 5 人 ・地域移行支援事業へ移行 1 人	・宿泊型自立訓練施設 1 人 ・グループホーム 1 人 ・救護施設 1 人 ・自宅 2 人

○地域移行支援事業（国事業）

支援対象者数	病 名	帰 結	退院後の帰来先
3 人	・統合失調症 3 人	・退院 2 人 ・支援継続 1 人	・単身生活 1 人 ・自宅 1 人

※市事業と重複利用の場合は再掲

○地域定着支援事業（国事業）

支援対象者数	支援終了者
10 人	0 人

《協働活動・普及啓発》

横浜市地域移行・地域定着支援事業の一環として、病院職員との協働活動を実施し、入院中の患者や病棟職員らに対する普及啓発および、関係機関との連携強化に努めています。

○病院関係者へ向けた普及啓発

他支援センターと協力し、病院スタッフを対象とした地域移行支援について意見交換ができる場を設けました。退院サポート事業や、地域移行支援について知らない病院スタッフも多く、知って頂くきっかけとなりました。また、病院・地域それぞれが地域移行について考え意見交換をすることができ、双方にとって良い機会となりました。

対象病院	内容	実施回数	参加機関（当センター他）
保土ヶ谷病院	地域移行・地域定着支援事業、退院支援について説明。情報交換。	各病院 1 回	病院 PSW 保土ヶ谷区生活支援センター
福井記念病院			病院 PSW 金沢区生活支援センター
カメラアホスピタル			病院 PSW 金沢・港南・旭区生活支援センター 保土ヶ谷・旭区基幹相談支援センター

○精神連絡会での協働活動

区・基幹・生活支援センターとの合同で、長期入院者及び更生入所施設からの地域移行について考える研修を行いました。7・10月の2回は、磯子区内の支援者で地域移行支援事業について学び、退院支援の事例を用いて支援のあり方を検討。後半は、退院された方を磯子区でどのように支えていくか、グループワークで意見交換を行いました。2月には、保護観察官を招いて再犯防止のための支援について学び、更生施設入所者の事例を用いて、施設からの地域移行についてグループワークで検討を行いました。病院や施設から出て生活を始める方を、地域でどのように支えるか考える良い機会となりました。

対象者	内容	実施回数	平均参加人数
磯子区内の地域支援者 (区、通所先、基幹)	・長期入院者および、更生入所施設からの地域移行支援について検討。	3回	延参加人数 55人

(11) 計画相談支援事業

平成25年度から「指定特定相談支援事業所」の指定を受け、地域で生活する当事者の自立した生活を支え、課題の解決や適切な福祉サービス利用に向けたケアマネジメントを行っています。また、障害福祉サービスを利用する際のサービス利用支援（サービス等利用計画案作成）、及び継続サービス利用支援（モニタリング）を実施しています。

○平成25年度からの契約者累計（人）

相談中	契約中	契約終了	合計
3	66	56	125

○世代別・男女別（人）

	～19	20～29	30～39	40～49	50～59	60～	合計
男性	0	3	4	4	6	7	24
女性	0	6	4	9	10	13	42
合計	0	9	8	13	16	20	66

○世帯状況（人）

家族同居	単身	GH	入院中	合計
29	26	10	1	66

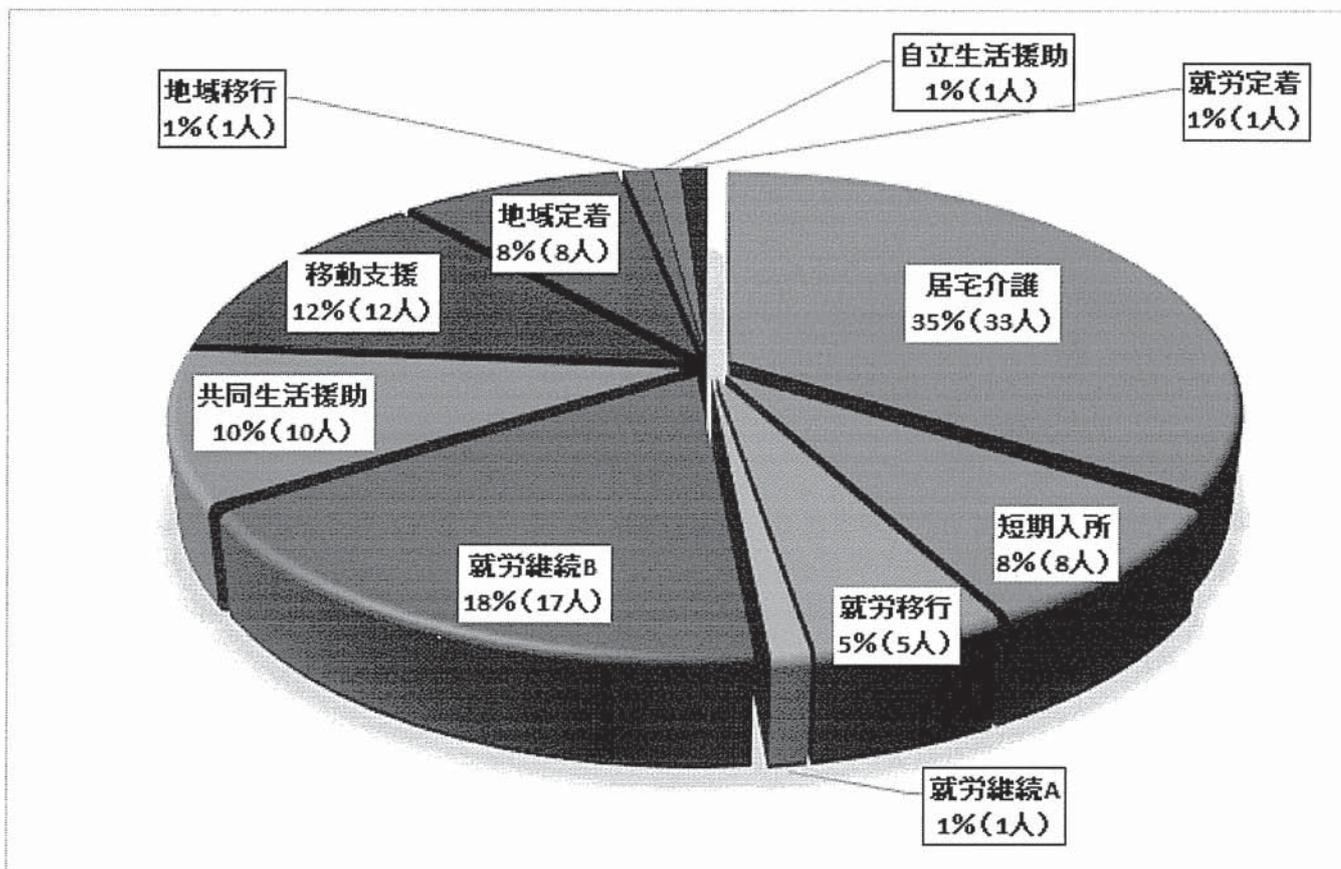
○H30年度の計画作成件数とモニタリング件数（件）

計画作成※	モニタリング
53	161

※計画作成件数は法定サービス更新時の作成も含む。

○利用サービスの内訳（※契約中の 66 人）

※ただし、円グラフのパーセントや人数は一人の方が複数のサービスを利用している場合も含む。



○平成 30 年度 援助方法（件）

面接	電話等	訪問	同行	担当者会議	打合せ	その他	合計
237	2,468	532	49	105	29	41	3,461

○計画相談終了の理由（H30 年度終了者 9 人）

終了理由	人数
サービス利用の終了	6
体調悪化のため	1
死亡	1
本人の希望により終了	1
合計	9

(12) 自立生活援助事業

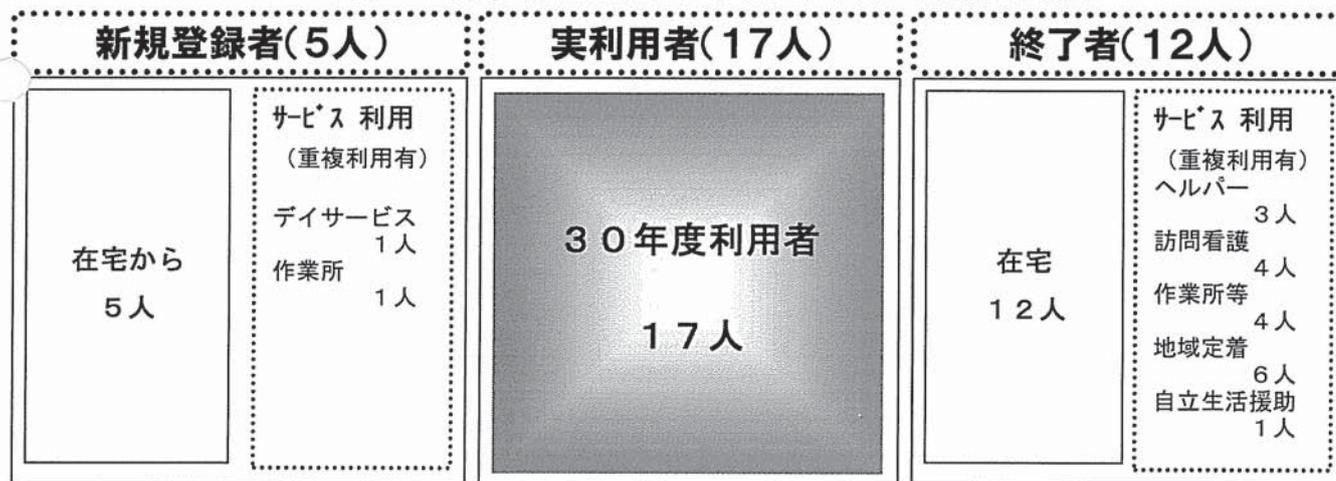
平成31年1月から「自立生活援助事業所」の指定を受け、施設や病院等から地域での一人暮らしに移行した障害者の方及び单身等により支援が必要な障害者の方に対し、定期的な巡回訪問や随時の対応により地域での居宅生活を支援しています。(人)

相談中	契約者数	終了者数
0	1	0

(13) 横浜市障害者自立生活アシスタント事業

单身等で生活する方を対象に、アウトリーチ（訪問）によるマンツーマンの生活支援を展開しました。施設の専門性を活かし、利用者の障害特性を踏まえた社会適応力・生活力を高めるための支援を展開しました。「自分にあった片づけ方を知り、生活空間を居心地よくしたい」「金銭管理の仕方を工夫したい」などの個別のニーズに柔軟に対応しながら、地域のサービスへの橋渡し、支援ネットワーク作りなどを行いました。本人の強み（長所）を活かし、本人にとってより自分らしい生活を目指しています。

平成30年度 自立生活アシスタント事業 利用者の状況



本表は30年度中における登録、利用、終了の状況を示したものである。したがって利用者及び終了者は30年度中の登録者とは限らない。

30年度利用者の状況、支援方法・内容

<世代別・男女別>

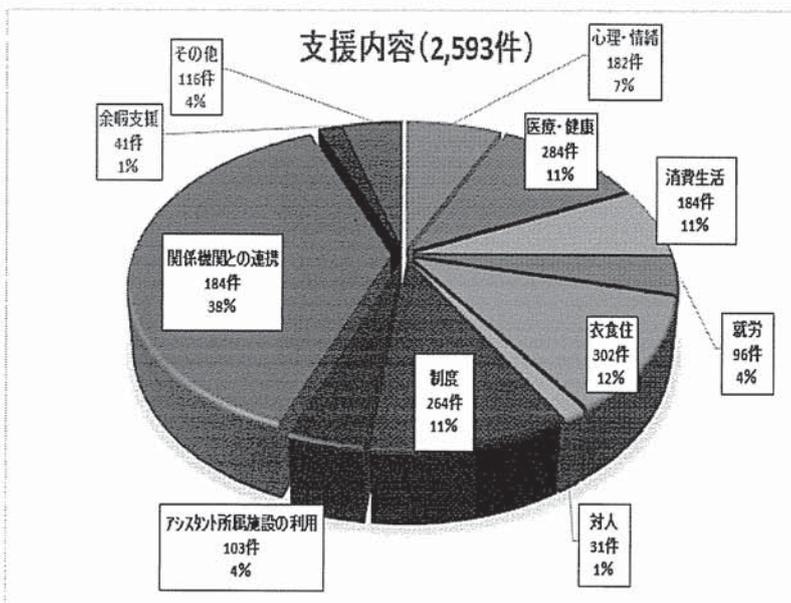
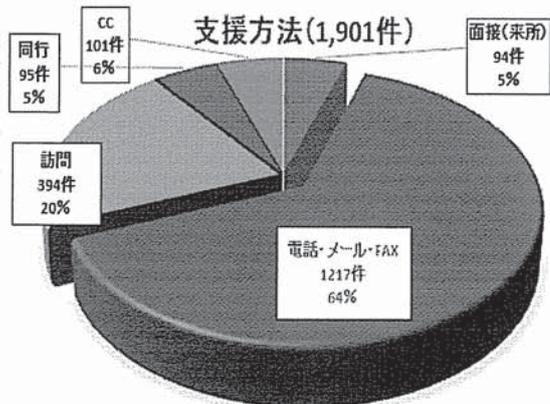
	20代	30代	40代	50代	60代	合計
男性	0	2	4	5	1	12
女性	0	2	1	2	0	5
	0	4	5	7	1	17

<利用目的>

①自立生活 (②以外)	②自立生活 (同居家族の 高齢化・死亡)	③退所後の 生活安定	④退院後の 生活安定	⑤その他	合計
11	2	2	2	0	17

<世帯状況>

家族同居	单身	合計
6	11	17



平成30年度横浜市磯子区精神障害者生活支援センター指定管理料収支決算書
(全事業)

自平成 30 年 4 月 1 日 至平成 31 年 3 月 31 日

(単位 円)

科目	予算額	決算額	差 額	備 考
I 収入の部				
1 指定管理料 収入	64,500,000	64,500,000	0	
2 指定管理料収入(追加)	399,600	399,600	0	
3 利用料収入(給付費)		3,682,580	△ 3,682,580	
4 地域相談支援及び計画相談支援に要した交通費収入		0	0	
収入合計	64,899,600	68,582,180	△ 3,682,580	
II 支出の部				
戻入精算B	1 人件費	56,273,000	63,475,597	△ 7,202,597
	所長			
	常勤職員			
	非常勤職員			
	アルバイト	2,398,000	3,058,907	△ 660,907
	調理アルバイト	2,406,000	1,829,773	576,227
	嘱託医賃金	1,008,000	0	1,008,000
	法定福利費	6,028,000	7,879,718	△ 1,851,718
	退職金給与引当金	1,700,000	1,321,147	378,853
	福利厚生費	54,000	60,000	△ 6,000
	労務厚生費	138,000	144,363	△ 6,363
2 施設管理費	4,530,000	4,396,678	133,322	
光熱水費	1,934,000	1,615,257	318,743	
庁舎管理費	2,698,000	2,867,091	△ 169,091	
修繕積立金	0	0	0	
利用者負担金充当金	△ 102,000	△ 85,670	△ 16,330	
3 運営費	3,697,000	2,163,384	1,533,616	
旅費	439,000	384,657	54,343	
消耗品費	919,000	418,144	500,856	
印刷製本費	132,000	12,000	120,000	
修繕費	300,000	0	300,000	
通信運搬費	544,000	549,204	△ 5,204	
賃借料	401,000	71,760	329,240	
備品等購入費	383,000	444,852	△ 61,852	
保険料	110,000	119,600	△ 9,600	
雑費	469,000	163,167	305,833	
4 本部繰入金	0	0	0	
5 変更協定分(追加分)	399,600	399,600	0	
支出合計	64,899,600	70,435,259	△ 5,535,659	
III 戻入精算				
人件費戻入精算分			0	
戻入合計			0	